

「母と惑星について、および自転する女たちの記録」

作・蓬萊竜太

配役

辻 峰子（母）

辻 美咲（長女）

辻 優（次女）

辻 シオ（三女）

【第一幕】

シオの姿が浮かび上がる。

シオ 「私が10歳の頃、母は私を近所の森に連れていきました。母は私の前を

黙って歩いていました。だんだんと、だんだんと道がなくなっていきました。木とか、茂みとか、落ち葉とか、蜘蛛の巣とか、色んな虫が交互に現れ、そんな景色がずっと続きました……私は一生懸命母の後を追いました。離れないように。離されないように。どこに行くの？とか、どうしたの？とか、私には聞けません。私は母にそういうことを聞けないんです。どれくらい歩いたのか、母は突然立ち止まり、言いました。『ここで待つとりなさい。すぐ戻るけん』……『ここで待つとりなさい。すぐ戻るけん』……そして母は、いなくなりました」

やがて異国の喧噪がやってくる。

(インスタブルをイメージしています)

携帯電話をいじってLINEをしている次女の辻優の姿が浮かび上がる。

優

「日本今何時？こっち昼の三時。時差何時間だっけ？エキメツキとかいうパンおいしい。テーブルに置いてあつて食べ放題。お姉ちゃんめっちゃ張り切ってる、わら。今絨毯選んでる。シオはずっと食べてる。早く帰りたい。スタンプ」

手記を綴っている長女の辻美咲の姿が浮かび上がる。

美咲

「母が死んで34日目。私達の旅は4日を越えていた。私たちは文字通り放浪している。私は率先して旅の恥をかくように努めている。連載を愛読してくださっている方なら何となくお気づきかも知れないが、私は引つ込み思案の臆病者である。しかし私が旅を提案した張本人であり、妹たちは異国の旅に馴れていないこともあり、慣れない役目を私が買って出していた。しかし何より、母の死という突然降ってわいた現実が私にそうさせているのだと思う」

タクシーを探している三人。

優 え？ ウソでしょ？ え買ったの？

美咲 買ったとよ。

優 ホントに？ 本気で買ったの！？

美咲 うん。

優 え？ 絨毯だよ？

美咲 そうだよ。

優 絨毯だよ？

美咲 わかってるよ、そうだったってんでしょ。

優 どこにあんの？

美咲 いや、配送してもらおうから。

シオ ああサバサンド食べたか。

美咲 サバサンド？

優 え、なんで？

美咲 は（笑）？

優 なんでそんなん買ったの？

シオ 全然タクシー走っとらん。

美咲 絨毯買うのに、理由いる？

優 いやいや(笑) おかしいでしょ……！

美咲 おかしい？(シオに) え、おかしか？

シオ え？ 私？

美咲 綺麗か絨毯やったよね。

シオ あ、うん。すごー綺麗。すごー高かったけど。

優 え？ いくら？ いくらしたの！？

美咲 はい明細。

美咲、カードの明細表を優に渡す。

優 (受け取り) 4千リラ？ 4千リラって何？ いくら？

シオ 20万円。

優 は？ 20万円！？ は？ は？ は？ 嘘でしょ？ 20万円！？

美咲 何よ、ちよつとうるさい、大きな声出さんで。

優 20万!?

美咲 別にいいじゃん、自分のお金なんだし。

優 ええええ、信じられんわ! 20万!?

美咲 だから大きか声やめて。

優 一括? 一括払い?

美咲 バシつと一括。記念に。

優 記念?

美咲 そう。

優 お母さん死んだ記念?

美咲 いや言い方おかしかでしょ。

優 ええええ……ちよつと、シオ。アンタ止めなかったの??

シオ 止める?

優 だって20万だよ?

シオ うん。止めたけど、もう買ってしまった。

優 (明細を繁々と眺める) 4千リラ……

美咲 (シオに) 何? サバサンド食べたかと?

シオ うん、ロカンタに行けばあるよね？

美咲 だってさっきお昼食べたばっかでしょ。

シオ そうなんだよね。

美咲 アンタそんなに食べる子やった？

シオ ああ……どうやろう……

美咲 ？

優 ん？ ん？ ちよつと待ってお姉ちゃん、4千リラ？

美咲 何？

優 4千リラ？

美咲 そうだよ。

優 え？ これ違うくない？ 4千じゃないよ。

美咲 何？

優 4万だよ。4万リラ。

美咲 は？

優 え、ほらほら！ いち、じゅう、ひやく、せん、まん……4万。

全員 ……

美咲 いやいやいや！ だって市場のオヤジと値段交渉して4千リラになっ

たとよ!?

優 だけどカードの明細4万だよ。

美咲 は!?(明細をひったくって数える)

シオ (突然) あ!

美咲 (ビクッとして) なに? こわいこわい!

シオ そういうの流行っとるって書いてった、ガイドブックに。  
優 流行ってる?

シオ カード決済のときに桁増やして打ち込んだって……!

美咲 は? 何ソレ?

シオ で、もともとそんがん値段やったと言ひ張る、詐欺……

美咲 詐欺!?

優 え、4万リラって、いくら?

シオ だから……200万円……?

美咲 ……200万!?(明細の額を数える)

優 ちよ、ちよっ、どうする!? え!? どうする!

美咲 どうするって……え、どうしよ…

優 戻ろ! 戻ろ! グランドバザールに!

美咲 200万って何!?

シオ え? 戻ると!?

優 大丈夫大丈夫! 店の人の間違え間違え!

美咲 私、貯金そんなに持っていかれたらヤバかけん!

優 わかったわかった! 何とかしよ! ね! 何とかする!

美咲 え、でもそういう詐欺なんですよ!?

シオ うん……ガイドブックに……

美咲 どのガイドブック。

シオ ……地球の歩き方。

美咲 メチャクチャ信憑性あるじゃん!

シオ ああ……

美咲 絶対詐欺じゃん!

シオ そうだね。

美咲 あのオヤジ、なんだおい!

優 お姉ちゃん

美咲 いや、絶対取り返す! 私の必死で貯めた貯金なんだと思ってるのよ!

グランドバザールになる。

絨毯を抱えて、途方にくれている美咲。

シオ

「店員は一步もゆずりませんでした。もともとその値段で売っていたと言いきり続けました。むしろ言いがかりは姉のほうだと」

携帯をいじる優。

優

「お姉ちゃん、詐欺にあう、うける、わら。200万の買い物させられたんだよ。なんだと思う。当ててみ。答え、絨毯。ばく、スタンプ」

大きな絨毯と荷物の側で座り込んでいる三人姉妹。

美咲 ……ありえん……

優 (携帯をいじりながら) ……ねえ、もう動こうよ。

美咲 動けない。動けんくらいはわかってよ……

優 やっぱり發送してもらいなくて。そんなの持って歩けないでしょ。

美咲 いや、もうこの国信用せん。送りもしないつもりだよあいつら。

優 ええええ…… (笑)

シオ じゃあ私、サバサンド買ってこようかな……

美咲 どうぞ……

優 アンタよく食べるね。そんなんだっけ？

シオ ああ……どうやろう……

間。

シオ ねえ……いつ帰る？ 日本。

間。

優 さあ……

シオ じゃあ……次どこ行く……？

美咲 さあ……

シオ ここで、骨撒く？

全員 ……

風が吹く。

舞台上に一瞬吹き荒れる。

シオ 「その時私たちは見たんです。異国の市場に吹き荒れた風の中、そこに

死んだはずの母、辻峰子が立っているのを」

辻峰子が立っている。

タバコに火をつける峰子。

峰子 私には重石（おもし）が三つ必要たい。

シオ 「母の口癖でした」

峰子 でないとさっさと好きなどに飛んで行くけん。

シオ 「私たちが毎日のように聞かされた言葉です」

「タイトルが浮かび上がる。

そこは長崎の食卓となる。

シオ 「私たちのある日の食事風景です。美咲お姉ちゃんは高校生。優姉ちゃ

んは中学生。私はまだ小学生です」

食事をしている4人。

突然箸を放り出す峰子。

全員 ？

峰子 これ誰作ったと。

全員 ……  
峰子 (優に) アンタね。  
優 いや、お姉ちゃん。  
峰子 (美咲に) まずか。  
美咲 ……  
峰子 まずかよ。  
美咲 ……別に……美味しく作ろうと思つたらんし。  
峰子 なん? 聞こえん。アンタもつと大きか声で話さんね。  
美咲 自分が作ればよかたい。  
峰子 私は料理が出来ん。何回言わすつ。  
美咲 じゃあ感謝くらいせんね。  
峰子 感謝? シオ、あんた栄寿司行っつていつもんと買っつてきて。  
シオ ……  
峰子 (お金を出す) ほら、早う。  
シオ ……  
優 (シオに) よかよ別に。  
峰子 行っつてきなさい。

シオ …… (立ち上がる)

峰子 美味しか物は金で買える。なんでワザワザ美味しく作ろうとも思っとらん料理に感謝せんばいかん。馬鹿にしとつとか。

美咲 はい(笑)？

優 でも美味しかよ。

峰子 アンタ味音痴？

優 なん？

峰子 シオ、アンタどげん思った？ 美味しかったか、まずかったか。

シオ ……

峰子 (大きな声で) どげん思った？

シオ ……

答えないシオ。

美咲 もうよか。

美咲、全員の料理を捨て始める。

優 いや、お姉ちゃんね、美味しゅう作ろうと思つとるとよね。美味し

し。お母さん、そげん言い方するけん。

全員 ……

美咲 シオ、お金。私行ってくる。ホラ。

シオ ……

峰子 私はシオに頼んだと、アンタじゃなか。

美咲 いいです。私の責任やけん。

峰子 それはそれ、これはこれやろ。

美咲 よかたい別に！ 行ってくるつてゆうとるでしよ！

峰子 だからでつかい声出すなつてゆうとるやろうが！！

美咲 ？？

峰子 （大きな声で）おばあちゃん寝とるやろうが！！ 聞こえるやろうが！！

全員 ……

優 ……いや、お母さんよのほうが大きい…

峰子 シオに頼んだつたい！ 私が！

シオ ……

峰子 シオ！ アンタなんね？ じっくりもじっくりもなんねそれ？  
シオ え？

峰子 何で何も言わん。なんでいつつも黙っとる！ アンタのそがんところ  
すっごーイライラする！

美咲 シオ、よかけんお金渡さんね。お姉ちゃん行ってくるけん！

峰子 美味しかかまらずかくらい自分でわかるやろうが！

美咲 ホラ、貸して。

美咲、シオが持っているお札を取ろうと掴むが、

シオ握りしめて離さない。

いや、離せないのである。

美咲 ちょっとシオ離して、ね。

峰子 言ってごらん！ 美味しかかまらずか！ ホラ！

美咲 もういいから！ シオ離して！

峰子 ホラ言え！ シオ！

美咲 離してシオ！

優  
ちよっともうやめんね！！

泣いているシオ。

優  
ホラ、泣いとるたい……

峰子、シオの前に行く。

シオ  
？

シオを叩く峰子。

シオ  
！

峰子  
泣かん！  
私が子供ん頃は泣くなんて絶対許されんかったとやけん！

それでも泣いているシオ。  
うづくまるシオ。

峰子 (叩いている) 泣かん泣かん!

美咲 ちよつとやめんね!

峰子 (叩いている) アンタはいつつも! なんも言わん! 泣かん!

シオ、立ち上がり、

シオ 「こういうことが私たち家族の生活にはしよつちゅうありました。母は

若い頃、バレーボールの実業団に所属していたらしく、厳しい教育を受けられたらしいです。『泣かん』も母の口癖の一つだったように思います」

小さな呑み屋となる。

シオ 「長崎に私たちの家がありました。正確には長崎の市街地から少し離れたところ

です。父親は私が4歳のときにいなくなりました。蒸発したんです。私はあまり覚えていません。もともと家には殆どいなかった

らしいです。姉2人も謎だと言っていました。住んでいた家は小さな一戸建てでしたが、誰かから譲り受けたと母は言っていました。母は市街地の路地裏に小さなバーを持っていました。これも誰かから譲り受けたと言っていました。小さい頃私たちは母の店の隅によく座らされていました。三人でUNOをやりながら母が接客している様子を見ていたものです」

呑み屋の喧噪。

三人姉妹、UNOに興じている。

峰子

いいよアンタ、つけとくから飲めばよかたい。飲む以外になんのあるってアンタに。ちよつとそこ！ 娘には話しかけんと。何回言わせると。こつちと話せこつちと。よかと。だけん言つとるやろ重石（おもし）やって。その子らおらんとどっか飛んでいっちゃうとよ、私が。よかと社会勉強させとるとやけん！

そんな峰子を見ているシオ。

シオ

「男の人と話している母は楽しそうでした。忙しい日の母は本当にイライラしていました。お客がない時は、壁に話をしているのか私たちに話をしているのかわからない感じで難しいことをよく言っていました」

峰子

おばあちゃんなんてね、浦上天主堂、そのまま残さんかったこと、いまだに怒っとるけん。広島みたいに原爆ドームにすればよかったって。ずっと

ぶつくさ言うとするよ。だけどデモとか反対運動とかは嫌がるとよ。聖書には

許せと書いてあるって言うて。なのに私には延々アメリカへの恨み節聞かせる

とよ。変でしょ？そう思わん？キリストの国がキリストの国やのに教会の真上に原爆落とした、許せん、とか。あそこの教会は原爆ドームみたいにせんことを条件に再建の資金をアメリカからもらった、許せん。長崎はキリスト教への迫害と差別ばかりたい、許せん。許せん。許せん。あああ、出て行きたかこんなところ！どっか飛んで行きたか！

カラオケで「飛んでイスタンブール」を唄う峰子。

シオ 「母はいつもこの歌を唄っていました。理由はイスタンブールに飛んでいけるから、ということでした。勿論母はイスタンブールなんて行っ

たことはありません」

携帯をいじっている優。

優

「いやいや、ホント。見たんだって。幽霊。なんか、普通に立ってた。わら。お姉ちゃんもシオも見たって言うてる。マジだから」

手記を綴る美咲。

美咲

「心筋梗塞が母の死因である。何年前に本人から心臓が強くないと告げられていたので、そういう死に方を想像していなかったわけではなかったが、やはり突然死というのは残された者たちにとってはいろいろと考えさせられるものがある。私と次女は既に実家を離れて暮らしていたため、考えることはやはり最後に母と話したのはいつだったか、どんな内容の会話だったかということだ。これがなかなか思い出せなくて私は焦っていた」

シオ 「私たちは、旧市街から大きな橋を渡り、新市街に戻ってきました。夕方を過ぎていました。

ところが不思議なことに泊まっているホテルが見つからないんです。そのホテルは利用して何日か経っていたのに、何故か突然見つからなくなってしまったのです」

荷物と絨毯を抱え、ウロチヨロしている三姉妹。

優 いや、だからほら、この店さつき通ったもん。こっちじゃないよ。

美咲 もう何なのこれ、何なの、もう何なのよ……！！

シオ 私その絨毯持つよ。

美咲 よか！

シオ ……

優 あっちでしょ？ だから

シオ (ガイドブックを見て) 今あっちから来たよ。

優 うそ。

シオ 何で? 昨日までちゃんと帰れたとに。

美咲 ちよつと優、聞いてよ。そこらへんの人に。

私これ持ってウロチョロしとるとよ、私が一番疲れとる。

優 いやそれは自分のせいでしょ。

シオ だから私持つって言つとるとに。

美咲 だからそれはよか。

優 なんせ200万だからね(笑)

美咲 何笑つとると。

優 超高級絨毯だからね(笑) 人に触らせたくないんだよね(笑)

美咲、突然絨毯を叩き付ける。

美咲 ああああ!

シオ ちよつと!

美咲 ああああ!

美咲、絨毯を蹴飛ばす。

優 ちよつとお姉ちゃん！？ なんなん！？

美咲 もお貯金がああ！ ほとんどなくなつたああ！

シオ お姉ちゃん！ やめんね！ 一応200万だから！

美咲 するわけなかでしょ！ こんなもん！ ああああ！

美咲、絨毯を蹴飛ばし続ける。

シオ (絨毯を必死でかぼう) ダメダメダメ！ 売れるかも知れんし！

美咲 は？

シオ 200万より高く！ 売れるかもしれんよ！

美咲 (啞然としている) ……アンタそげんこと考えとると……？

美咲、座り込む。

シオ ちよつと、ダメだよそんな、道端で座り込んだら。

優 良かったじゃん、ネタが出来て。

美咲 なん？

優 エッセイのネタ。

美咲 アンタ、原稿料いくらだと思つとると。全然もともとれん。

優、座り込む。

シオ ちよつと、優姉ちゃんまで。

優 えええ、私だつて疲れた。

シオ ええええ……もう。

シオ、ガイドブックを確認しながらウロチヨロする。

優 え（笑）貯金って200万くらいなの……？

美咲 ？ なに？

優 そんなもんなの？ もうちよつと貯めてるかと思ったよ。

間。

美咲 フリーライターなんてOLより金なかよ。

優 ああ……

美咲 何？

優 まあ、浩孝さんお金持ってるし、200万くらいどうってことないでしょ。

美咲 結婚したらね……

優 いや、しなよ(笑)

優、携帯をいじり始める。

美咲 報告せんでよ。

優 うん？

美咲 アンタの旦那に。

優 あっくんには？ 何を？

美咲 だけん、絨毯のこととか、金額とか。

優 別に言わないよ。

美咲 あ、そう。

優 ……

美咲 なんか……こがんとこにまで現れてさ。

優 ？

美咲 腹立たん？

優 ん？……お母さん？

美咲 ……なんなん……

優 ……

美咲の写メを撮る優。

美咲 は？

優 記念に。

美咲 ……

美咲、手記を綴る。

美咲 「私から言わせれば、母は私たち姉妹の前に現れる権利などない。あんなに好き放題生きて、何を思い残すことがあるうか。恨んでいるとすれば私たちのほうである。ふてぶてしく私たちの前に現れる母に私は腹を立てていた。彼女との最後の会話を探していた私が馬鹿を見た。そう思った」

峰子 美咲。

美咲 (手記の手を止める) ?

峰子 ゴメンね、夜遅く。

美咲 ?...:なん? どうしたと?

峰子 アンタ、高校卒業したら、どげんすると?

美咲 なん? いきなり。

峰子 大学行くと?

美咲 そうだよ。だけんこげんして勉強しとるでしょ。

峰子 家出ていくと？

美咲 それも前言ったたい？

峰子 東京ね。

美咲 なん……お金のこと？

峰子 ん？

美咲 お金なら心配なかって言うたやろ？ お母さんには迷惑かけんって。

峰子 バイトと国の制度ばフルに活用する。

美咲 ……

峰子 ちゃんと聞いとるよ。

美咲 ……どうしたと(笑)？

峰子 ……

美咲 え。なん？

峰子 うん……

美咲 ……ちゃんと話さんね。

間。

峰子 私は、アンタには出て行ってほしゅうなかと思つとる。

美咲 ……？

峰子 こん家におつて欲しか。

美咲 ……

峰子 そう思つとる。

間。

美咲 ……お母さん、聞いて。

峰子 私が出て行きたか。いや、出て行こうと思つとる。

美咲 ？

峰子 こん家を。私が。

間。

美咲 は？

峰子 今付きおうとる人と、白瀬くんと、2人で暮らしたか。だからこんウチんことはアンタに頼みたか。おばあちゃんのことでもアンタに頼みたか。勝手に東京に行かれたら困る。

間。

美咲 え……なんゆうとると……？

峰子 勿論アンタは高校生やから、お金のことは心配せんでよか。お金はこん家にちゃんと入れる。ただ、家んことはアンタに任せる。

美咲 ちよつとなんゆうとると？ 何ゆうとると？ え？ なんゆうとると  
(笑)？

峰子 でもアンタが卒業したら、行く行くはそういうお金のことも、正直相談したか。

美咲 は？ は？ なんなん？ 意味わからん、ちよつと待つて意味わからん  
(笑)

峰子 だから、今付きおうてる白瀬くんと2人きりで暮らしたか。

美咲 (啞然とする)

峰子 何かと不便すぎる、今は。

間。

美咲 (混乱している) え……私の将来、大事じゃなかと？

峰子 将来？

美咲 ん？ 自分のことと、私の将来、どっち大事にしとると？

峰子 私だってそこは考えた。そして思った。大学行ったからアンタの将来がようになるとか、そんがん時代じゃなか。

美咲 ？

峰子 それに私はアンタら三人ば今まで育ててきた。食べさせてきた。これくらいの頼みはアンタ引き受けるべきやと思う。

美咲 引き受ける……？

峰子 そう。

美咲 ……家のこと、全部私がやれって……？

峰子 そう。

美咲 え……シオまだ小学生だよ？

峰子 言われんでもわかつとる。

美咲 男と一緒に暮らすために出て行くって？

峰子 私は、今しかなか。

美咲 ？

峰子 アンタはこれから色々ある。だけど私は今しかなか。なら、私が優先されるべきたい。

美咲 ……

峰子 ちなみに明後日くらいには出て行きたか。

美咲 明後日？？

峰子 第一希望は明後日です。

間。

美咲 ……ちよつとみんな起きて…

峰子 ？

美咲 ちよつとみんな起きて！ 来て！ 早う起きて！ こつち来て！

峰子 なん？

美咲 早う来て！！  
峰子 ちよっとおばあちゃん起きるやろ！  
美咲 早う来て！！

優とシオが現れる。

優 何？ どうしたと！？

美咲 こん人家出て行こうとしとる！

優 は？

美咲 (泣きながら) 育児放棄！！ こん人私たち置いて家出て行こうとしとると！ 育児放棄！

峰子 別に放棄しとらん。ただアンタらと住む家ば変えるだけ。

美咲 男と暮らすって！ 私たちこん家に置いて、男と2人で暮らすって！

優 え、うそ……

美咲 (泣きながらうずくまる) あああああ！！！！

優 え、え、ちよっとお姉ちゃん大丈夫！？

美咲 ああああああ！！

峰子 泣くことじゃなかでしようが！

美咲 (うづくまっている)

峰子 泣かん！ 私だってわがまま言う権利はある！

美咲 散々、好き放題してたい！ 家のことだって、私いっぱいやってき

たたい……！

峰子 私のどこが好き放題？

美咲 お酒……パチンコ……麻雀……男……男……男……！

全員 ……

美咲 お酒……パチンコ……麻雀……男……男……男……

間。

美咲 行くけん、私……大学……！

峰子 私も行くけん！ 明後日行くけん！

優 え明後日!?

峰子 第一希望です!

美咲 シオちよつと電話して、電話!

シオ 電話?

美咲 警察でも市役所でも! 育児放棄しようとしとる母親がおりますって!

シオ え?

美咲 よか、じゃあ私がする。

美咲、電話をかけようとする。

峰子 ちよつとアンタなんやつとるとね。

止めに入る峰子。

美咲 どいてよ。

峰子 アンタ親ば国に突き出すつもりね!

美咲 よかけんどいてよ!

美咲と峰子、もつれ合いになる。

優 うわうわうわ……！！ ちよつと！

シオ、長ネギを持って峰子を叩く。

峰子 は！？

何度も叩く。

峰子 いたか！ アンタ！ ネギで……！！ ネギでか！！

シオを突き飛ばす峰子。

峰子 (ネギでシオを叩いて) これは叩くもんじゃないやなかでしょ！！

峰子、長ネギを思い切りかじる。

優 えええ……

峰子 食べ物！！

全員 ……

間。

峰子 アンタらがそがん親不孝だと思わなかったわ。

峰子、去る。

全員 ……

異国に戻る。

美咲 あの人、あん時知ったのかな、心臓病のこと……

優 あん時？

美咲 ……

優 何？

美咲 『私は今しかなか』 って……言っとなったから。

間。

優 ……よくわかんないけどさ……お母さん、その場その場で喋ってただ

けだから。

美咲 ？

優 あんまり考えないほうがいいよ。

美咲 ……そうやね……あの人は、好き勝手生きた……うん。

優 ……

シオが戻ってくる。

手には食べ物。

シオ あった！ あったよ！ 向こうに！ ここ全然違うとこたい！

優 そうなの？

シオ タクシー、いつもと違うとこで降ろされたごたる。

美咲 なんそれ、だってお金いつもと同じくらい取られたよ？

優 騙されたってこと？

シオ わからんけど。

美咲 もう！ こん国！ ホント好かん！ 絨毯騙されて、タクシー

に騙されて、ああ絶対笑ろうとる！ 馬鹿にされとる！ もう嫌！  
もう帰ろ！ アンタほんと、ずっと食べとるね！

シオ ? え。ああ、いる？

美咲 いらん！

優 じゃあもうここで撒く？ さっさと骨撒いて帰る？ 私それでもいいよ。

美咲 ……ここ、ただの道路たいね。

優 うん。

シオ こげんところで撒いたら……車にも迷惑かかりそうやしね。

優 そうだそうだ。

全員 ……

優 だから……歩こ。

歩き出す三人。

優 ねえ。さつきからすれ違う人、シオのことばっかり見てない？

美咲 思った。見とる。

優 え、なんなの？

シオ さつきも売店でジロジロ見られとったと。

美咲 なんかそう言えばタクシーの人も見とらんかった？

シオ え、なん？ 怖か。

優 あれじゃない？ ちっさっ！って思ってたんじゃない？

美咲 え、そがんこと（笑）？

シオ いやおかしかやる。私、そげん世界の人が驚く小ささ？

優 じゃない？

シオ ちよっと、なぐるよ。

優 じゃあ何?? なんだろ。

シオ ジロジロ見るならお姉ちゃんの方やる普通。だって絨毯担いで歩いとるとよ(笑)?

優 ああ(笑)

美咲 うるさか。優、ちゃんと見とつてね、シオのこと。さらわれんこと。分かってる。

シオ いや私もう23やけん。

優 23でも小さかけん。

シオ 関係なかけん。

美咲 あああシオがもう23って、信じられんわああ。

歩きながらLINEをしている優。

優 「あつくんには言うなと言われてるけど。お姉ちゃん貯金殆ど無くなったらしい。どうしよう」

美咲 「ホテルに戻って解ったことだが、この時妹がジロジロ見られていたの

は断食祭という一ヶ月断食をする宗教上の行事が始まっていたからであつた。そんな中、街中を歩きながら食べ物をバクバク貪っている妹の行為は、空腹の信者達にとって配慮が欠けたものであつたのだ」

シオ 「私たちがホテルに辿り着いたころ、もう日が沈もうとしていました」

ホテルの一室となる。

優 あああ……疲れた。

シオ 大丈夫？ お姉ちゃん。どつか痛か？

美咲 (寝転んでいる) 全身。全身の痛か。

優 いやホント、そんなの担いでよく歩いたよ。

シオ うん、ホント凄か。

美咲 でしょ。怒りば力に変えとったけん。

優 ああ……

シオ ねえねえ見て、夕日すつごか！

窓の外を見ているシオ。  
海の音。

優 (見る) わああ、すご。

写メを撮る優。

シオ (見る) 海、真っ赤。  
優 うん。

海と夕日を眺めている三人。

シオ 綺麗かねえ。  
美咲 そうねえ。

間。

優 (眺めながら) ……あのさあー。

美咲 うん？

優 貯金、あるのかなあ……

美咲 はい？

優 お母さんの貯金。

シオ え？ 今？ こん景色見ながら今？

優 うん。

シオ えええ？

優 いやいやでもさ、話さないと。

シオ いや、でも今？

優 大事なことでしょ。(美咲に) どうなの？

美咲 知らんわ。

シオ いや、なかでしょ。

優 ないか。ないかな。

シオ あったらあんげん生活しとらんよ。

優 してないよね。ですよねえ……

シオ どうしたと？ お金いると？

優 いやいるでしょ。

シオ・美咲 ？

優 え、いるでしょ？ いない？

シオ・美咲 ……

優 だってお姉ちゃん貯金無くなったんだよ？

美咲 うるさか。

優 うちホントお金ないから、ほしい。

美咲 なかと？

優 ない。

美咲 なんで？

優 なんでって、旦那の仕事派遣だよ？ バンドやってライブやって派遣

の仕事転々としてんだよ？ ないでしょお金。

美咲 だけんアンタも働けばよかやろっての。

優 だから私、専業主婦がいんだっての。

美咲 ああ、はいはい。

シオ なんで？

優 なんで？……うーん、よくない？ 専業主婦。

シオ まああ……

美咲 今専業主婦なんて全体の三割程度よ。

優 ふーん、関係ないね。

シオ 働きたくなかったこと？

優 まあああそうだね。あくせく働きたくない。

シオ じゃあお金無くても家におるほうがよかとね。

優 いやでもお金ないのはすっごい嫌！

シオ ああ……

優 それはそれですっごい嫌！

美咲 なんなんね、じゃあ。

優 だからお金ほしいの。

美咲 お金のなかなら働くしかなかでしょ。

優 えええ嫌だ。私は専業主婦にこだわりたい。

間。

美咲 アンタもしかして、あん人んごとなりとう無かけんそがんこと言うると……？

優 ?

シオ ……そうなん……？

優 ……

峰子が飛び込んでくる。

そこはショッピングモールのスタッフ控え室になる。

峰子 アンタ何やつとると！ 何でこげんことしたと！

優 ……すいません。

頭を下げる峰子。

峰子 ほつんとに申し訳ありません！！ こげん！ 万引きなんてする子じゃ

なかとです！ きつと魔の差したんだと思います！ ほつつつんとに

口紅なんて、高校生の身分で。(優に) 初めて？ 初めてでしょ？

優 んー………

峰子 はい、初めてです。(聞いている)ほんつとに。ああああスイマセン！  
払います！

峰子、財布からお札を取り出す。

峰子 いえいえ！ 多くなかです多くなか！ よかとです！ ホントに気持ち  
ちなんで！ いえいえ！

そうですか？ お店も困っちゃいますか？

ホントによかとですか？ じゃあ口紅の代金だけで……(頭を下げて)  
ほんつとに申し訳ありませんでした！ (優を見て)きつと心の病気  
なんだと思います……

優 え……？

峰子 これぐらい買える小遣いは渡しとるとですよ？ ええ、難しか年頃な  
んですホント。はい。ほんとにご迷惑はおかけしました！

優 すいませんでした……

峰子 じゃあ、優ちゃん行こ。

優 ……

立ち上がる優。

峰子 あのと、このことはくれぐれも内密に……はい……この子の将来のことも

ありますけん……スイマセン！ それじゃ、失礼します。

頭を下げる峰子と優。

帰宅の道となる。

峰子の後ろを歩く優。

峰子 ……アンタ、好きな男でもおるとね。

優 ……え、え、なんでわかると？

峰子 どおりで最近化粧っ気が出てきたと思ったわ。

優 ……

峰子 取ったと、初めてじゃなかでしよ。

優 だってお金なかとやもん……お小遣いもらえんけん……

峰子 バイトでも何でもすればいいでしよ。

優 校則で禁止さ。

峰子 (笑って) で、万引か。

優 ねえお母さん、うちが貧乏だってクラスにバレちゃうよ？ よかと？  
ヤバくなか？

峰子 別に貧乏じゃなか。口紅くらいは買える。

優 じゃあ買ってよ。お小遣い頂戴よ。

峰子 私の稼いだ金だから。使い道を私が決めて何が悪い。それが嫌なら自分でバイトするなり自分で何とかしろって言ってるの。

優 だけんバイト禁止なんだからあああ。

峰子 万引きだって禁止だわ！。

優 ……ああ……

間。

峰子 優。

優 ？

峰子 私は別に万引きしたことは怒っとらん。

優 ……え？ そうなん？

峰子 どうしても欲しかったとやる？ そうなんやる？

優 ……欲しかった。

峰子 どうしても手に入れたいものがある。だけどバイトは禁止、小遣いはなか。ならルールを破るしかなか。その考え方はあつとる。間違つたらん。

優 え？

峰子 そしてアンタは万引きば選んだ。バレたらハイリスク、だけどバイトよりは手っ取り早か。私もそうする。アンタ似とる私に。

優 ？

峰子 だけどね、バレたら終わり。しかもあんな口紅くらいの小さかサイズ。なんでバレるか！ 下手か！

優 は？

峰子 バレるとが情けなか！ 普通バレんでしょ！（手でサイズを示して）こげんよ！？ 私なんて炊飯器万引きしたことあるけん！

優 炊飯器……！！？

峰子 （手を出して）はい。

優 何？

峰子 私の金で買ったとやけん、私のもんでしょ。

優 ？

峰子 アンタ賭けに負けたったい。バレなきやアンタもんだった。

優 ……

峰子 はよ。

優 いやいやおかしかでしょ（笑）？ 何で二択しかなかわけ……？

峰子 ？

優 何でバイトと万引きの二択？ 小遣いちょうだいよおお、てか買って

よおお！ そんなに嫌？ 子供に金使うとが。

峰子 嫌だね。高校生で口紅とかくだらん。

優 お母さんだっってくださいにしか使つとらんでしょ。

峰子 なん？

優 男に使ったり、賭け事につかったり！ お酒とか！ そんなんばつか

りたい！

峰子 私はその分余計に働いとる。やりたいことの為に朝から晩まで余計に

働いとるとたい。アンタにとやかく言われる筋合いはなか！ アンタ

の口紅買う余裕もなければ、そんがん気持ちにもなれん！

優  
……

峰子 アンタも大人になったら好きなだけ働いて、好きなことすればよか。

口紅を峰子に渡す優。

優 (悔しい) ……嫌だ、働かん。

峰子 ……？

優 私は結婚して、旦那さんがずっとちゃんといってくれて、その旦那さんがちゃんと稼いでくれて、ちゃんと好きなことをさせてくれて、ちゃんと好きなもの買ってくれる。そういう生活するけん。

峰子 ……

優 お母さんみたいにケチ臭いこと言いながら働きとうなか。

口紅を見る峰子。

峰子 私こんがん色使わんたい。

優 ?  
峰子 はい。

口紅を優に差し出す峰子。

優 …… (受け取る) ありがとう。

峰子 交換してきて。

優 ?

峰子 もっと赤いやつに替えてきて、店の人にゆうて。

優 はい？

峰子 間違えましたって。盗むの間違えちゃいましたって。

優 嫌だよ！ 無理に決まっとるでしょ！

峰子 お金払ってんだからよかでしょ。

優 自分でやってよ。

峰子 嫌ばい、みっともなか！

峰子、去ろうとする。

峰子 (立ち止まる)

優 ?

峰子 将来アンタがホントにそがん生活しとったら、誉めてやる。

優 ?

峰子 そう。そんがん生活が一番よか。

優 ……

峰子 ……

峰子、去る。

ホテルの一室に戻る。

優 ……

美咲 アンタ、万引きしとったと……？

優 だって……メイクしたかったんだもん……

美咲 ませとったけんね、アンタ。

シオ 似とるって言われたと？

優  
……

優、泣いている。

美咲 え、え？　なんで泣いとると？

優 はあああ（笑）……お金ない。

シオ・美咲

優 結婚してから五年間ずっとお金ない……。ていうか借金あんな。

美咲 借金？

優 あっくん月イチでライブするから、少しずつ借金溜まっていて。

美咲 え、いくら？

優 200万くらい。

シオ うそ……

優 貯金出来ない。毎月利息返すだけで、元金減ってかないし。どこにも

行けない。何も出来ない。お姉ちゃんに借りようと思ってたくらいだから。

美咲 はい？

優 この旅行代プラス、あと200万。

美咲 ええええ……

優 もおとおお絨毯なんかに使うから……！ ホント馬鹿！

美咲 いや、なんで私が責められる？

優 もう、疲れたああ。

美咲 だから働かんね……！

シオ うんうん、旦那さんにもバンドちよつとやめてもらうてさ。

優 いやだいやだ。だってあつくんからバンド取ったら、ほんとに何も無くなるもん……！

美咲 えええ何ソレ……

優 あああ……やっぱり働かないと駄目なのかなああ……

美咲 そりやもう、仕方なかでしょ！？ 200万なんて必死で頑張れば何とかなるよ。

優 いやだああ……負けた気がするうう……

シオ なん？ 負けたって。

優 ……

シオ お母さんに？

優 ……悔しい……

美咲・シオ ……

間。

美咲 だって…お金なんてあるわけなかやろ。

シオ 家は大丈夫とかな……？

美咲・優 ?

シオ ローンとか、あるとかな。

優 それ、何か言ってなかったの？

シオ お母さん？

優 だって最後はアンタと2人で暮らしてたんだから、そこらへんのこと。

シオ なんもゆうとらんかった。

優 ああ……そう。

美咲 なんもわからん。何も知らん。何も聞かされとらん。

シオ ……

美咲 私たち、あん人の重石のために必要だっただけやけんねえ……

シオ・優  
……

シオ

「経済的なことは私たちを不安にさせました。長崎市内のお土産屋で働いてる私なんかは母のローンや借金を背負えと言われても、どうすることも出来ないからです。母が死んで重石の役割を終えた私たちは、一体何なのか。私たちは夕食に出かける気力を失い、そのまま眠ることにしました」

夜。

横になっているシオと美咲。

優がLINEをしている。

優

「そっち朝？　なんかグチャグチャしてきた。スタンプ。帰りたい。帰りたくない。帰りたい。帰りたい。私、働いた方がいいかな。私に働いてほしいですか……？」

シオ

「私はこの旅行中にある決断をしなければいけませんでした。なかなか眠れないでいました。中学の夜のこと私の中に巡っていました」

そこは長崎の家の台所となる。  
うずくまっている峰子。

シオ お母さん？

峰子 ？

シオ 大丈夫と……？

峰子 あら（笑）？ 起きとつたと。待つとつたと私の帰りば！ いい子だ！

シオ ちよつと静かに。

峰子 あん？

シオ ……優姉ちゃん、起きちやうけん。

峰子 優？

シオ 明日、受験なんやから。

峰子 ……別にうるさくしてなかでしょうが。

シオ ……

峰子 ほら、酒取って。

シオ ……飲み過ぎ。

峰子 よかと、今しかなかと。

シオ 何ソレ。

峰子 よかけん持ってこんね。

シオ ……何かあったと？ 太田さんと。

峰子 ……

シオ 外であげん大きか声出してケンカして。

峰子 よかと、あげん男。別れたけんさつき。

間。

シオ あ、そう。

峰子 ……

シオ ……とにかく、騒がんでね。

シオ、ベッドに戻ろうとする。

峰子 アンタも出て行くと……？

シオ なん？

峰子 よかとよ？ 美咲みたいに大学入ったらさっさと出て行って。優もそのつもりでしょ。

間。

シオ ……出て行ってほしか？

峰子 何（笑）？

シオ 面倒見る人おらんくなるよ……？ よかと？

峰子 ……は？

シオ それでよかなら出て行くけど。

間。

峰子 酒ば、取れ。

シオ ……

峰子 叫ぶよ、酒持ってこいって。

シオ ……

峰子 なんそん目。

シオ ……

峰子 アンタ似てきたわ。

シオ ……

峰子 同じたい。

シオ 何が？

峰子 そん目。立ち方。

シオ 誰と。

峰子 アンタン父親。

シオ ……

峰子、その場で寝転ぶ。

峰子 アンタに面倒見られると思うと、ゾツとする（笑） ……

シオ ……

峰子 さっさと出てかんね。

シオ ……  
峰子 ……アンタは……違うと……

間。

シオ ……何が？……何が違うと。  
峰子 ……

間。

峰子 ……父親。  
シオ ？

峰子、シオを見る。

シオ 私だけ……父親の違う……？（驚いている）……  
峰子 ……

峰子、立ち上がる。

峰子・シオ  
……

峰子、去っていく。

美咲  
ない……！

シオ  
……

美咲  
どこにもない……！  
ない！  
ない！

シオ  
「私は姉の声で目を覚ましました。気がついたら朝でした。姉はベッドのまわりをゴソゴソとしていました」

美咲  
何で？？  
え？  
優に渡した？  
ちよつと優起きて。

優  
何？  
どうしたの？

美咲  
ないの。

優 何が？

美咲 骨。

優 骨？

美咲 あん人の骨よ。瓶に入れとったやつ！

優 は？

美咲 シオ。起きて。朝だよはよう起きて。

優 お母さんの骨がないんだって。

シオ ええええ……？

優 ちゃんと見たと？

美咲 見たと。昨日この中に入れて持ち歩いとったやろ？ アンタも

見とったやろ？

優 ないの？

美咲 ない。

シオ ええええ落としたと？

優 あー……。

美咲 え、そがんことある？ 落とした？ いや、違う。だって私昨日の夜出したもん靴から。そうだ出したわ。

優 じゃあどっかにあるでしょ。

美咲 (指差して) ここに。

優・シオ ?

美咲 ここに置いとったと。ここに置くように決めとったと私。

シオ ……なかよ。

美咲 うん、なか。

シオ 何か昨日から変さね。

美咲 何?

優 変って……?

シオ お母さん見てから。ホテル見つからんとか、骨無くなるとか。

優 絨毯買わされるとか。

シオ それはお母さん見る前。

優 だよね、関係ないね。

シオ 関係なか。

美咲 おい。

優 うそうそ冗談冗談 (笑)

シオ ホントに落としたとじゃなか?

優 もおおお、どうする？ 骨ないと意味ないじゃん。

シオ お母さんが持っていたとか（笑）？

美咲 は？

シオ おばけのお母さんが、持っていたたと。

美咲 なんソレ。

優 ちよつとやめてよ（笑）

美咲 なんで持っていくと？

シオ ええ？ だけん、復活するため。

美咲 復活？

シオ そうそう（笑）段々、肉体ば、取り戻していくと。

優 こわい。え、え、なんで？

シオ まだまだやりたかことがいっぱいあつて。

優 何やりたいことつて。

美咲・シオ  
……

ここで、爆発音が遠くから聞こえる。

三人  
……？

優 何今の……？

間。

シオ ……わからん……

優 ん？ どっから聞こえた……？

シオ えええ、わからん……

優とシオ、窓から外を覗く。

美咲 ……でも、生きとつてもずっとあの生活でしょ……

優・シオ  
？

シオ ？ お母さん？

美咲 お酒、パチンコ、麻雀、男、男、男……繰り返し。

優 ……まあね。しかも楽しそうだったから、ないんじゃない……？ 他

にやりたかったことなんて。

シオ ……そう？ 私あんまり楽しそうに見えんかったけど。

優 えええ？？ いやいや、楽しそうだったよ。(美咲に) ねえ。

間。

美咲 ……わからんよ全然……

身支度をする三人。

美咲 「母は一体何だったのか、よくよく考えたことはない。私たちにとって母はあの奔放な母であり、それ以上でも以下でもなかった。ルーツや理由なんて知ろうとしなかったし知りたいとも思っていない。私は、母の骨を母が懂れていた国に撒くことで何となく色んなことを綺麗に終わらせたかったのだ」

シオ 「私たちは骨を探しに、昨日ホテルを探していたところにまた、戻ってきました」

辺りを探しまわっている三人。

美咲 あるわけなかよね……

優 だよね。

シオ ……お腹空いた。

美咲 落としたら誰か気づきそうなもんじやなか？

優 うーん……

シオ じゃあ……昨日のタクシー？

美咲 えええ……そんなのどうやって探せばよかわけ。

優 わかんない。

シオ 昨日のタクシー会社が分かればよかとけど。

優 あつても絶対捨てられてるよ、あんなもん。

シオ そうだよねえ。

携帯をいじっていた優。

優 え？ うそ……？？ さっきホテルで聞こえたのってこれじゃない……？？

美咲 何？

優 イスタンブールにて警察車両が爆発。商店とホテルも巻き込まれる……死者11人……。

愕然とする三姉妹。

寄り添うように座り込む。

イスタンブールの喧噪。

しばし動けない三人。

優 「めっちゃ怖かった。ネットじゃ観光地は安全だって書いてたのに。旅行会社の人も言ってたのに。こんなに近くで」

美咲 「こんなに近くで起きたことなのに町は馴れたように通常の顔に戻っていく。それが、むしろこの現実を身近に感じさせた」

シオ 「この現実が、私の決断を鈍らせ、もつともつと混乱してしまいました。もう、決めなければいけないのに……」

喧噪を断ち切るように立ち上がる優。

優 うん、帰ろ。骨無くなったし。

美咲・シオ ……

優 うん、帰ろう。

美咲 え……こげん中途半端に帰るわけ？

優 いやいや、中途半端って何？

美咲 だって、中途半端じゃなか……？

優 ん？ じゃあどうやったら終わりになるわけ？

美咲 ……

優 だって、危ないじゃん、単純に。

美咲 ……

優 意味ないでしょ、こんなの。

美咲 意味なかったってなん？。

優 別に意味なんてないじゃん、骨撒くだけでしょ。その骨も無くなったんだから、帰ろうよ。

美咲 じゃあ一人で帰れば？ 私まだおる。

優 いや、わけわからん。何で？

美咲 ……

優 だって近くで人死んでるんだよ？ わけわかんないところなんだよ？？

美咲 わかっとするさ。

優 じゃあなんでよ。

美咲 ……なんか、おさまらん。

優 は？

美咲 ……グラウンドバザールであん人見た時から、なんか、おさまらん……

優 おさまらんって……

美咲 こんまま帰ったら、ずっとあん人のこと嫌いなまま生きていきそうやもん。貯金無くしとるけんもつと嫌いになりそうやわ。

優 いやいや。もう忘れよ。お姉ちゃんね、お母さんのことになると変だわ。意識しすぎ。

美咲 なん？

優 もう忘れよ、ね。普通に親が死んだだけ。皆、経験すること。それだけ、特別なことじゃない。

美咲 そうね、アンタなんだかんだ一番上手くやつとったもんねお母さんと。

優 ああ、そう、そうかもね。

美咲 じゃあアンタ何で来たわけ？ 人ん金だから？ 人ん金で海外旅行出来るけんね。

優 違うわ。

美咲 アンタ昔からそういうズルかところあるよ。お金返して。旅行代返せ。

優 いや、セコいのどっちよ？ 頼まれたからついてきたんでしょ!?

美咲 いや別に頼んどらんし。

優 は!?

美咲 自分のお金で帰ってね。

優 何だソレ……は!？ 何だソレ!？

美咲 うるさか。

優 もういいわ。シオ、帰ろ。

シオ (泣いている) ……

優 ? え? どうした……?

シオ (泣いている) ……

優 怖かったか。そうだよね。

シオ (泣いている) ……

優 (抱擁して) 大丈夫、もう大丈夫！ ね、もう帰ろうね。

シオ まだおる…

優 ?

シオ まだここにおる…

優 ?? 何々？ わけがわからん、どうしたの？

シオ ……

優 なんでいたいの？

間。

シオ まだ… 決めとらんけん…

優 …… 何を？

シオ ……

優 決めてないって？

美咲 どげんした…？

間。

美咲 シオ……何なの？ ちゃんと言わんね。

シオ ……

美咲 ……シオ。

間。

シオ ……産むかどうか。

優・美咲 ？

間。

優 は？

美咲 ……何なん。

シオ ……子供……産むかどうか、まだ決められとらん……

間。

優 え、何言ってるの？

美咲 子供？

シオ ……

間。

優 ……ん？ それは……えっと……

間。

シオ 妊娠。

美咲 ……妊娠？

シオ ……そう。

間。

シオ  
妊娠。

間。

優  
嘘でしょ……？

シオ  
……

美咲  
アンタ……妊娠しとると……？

シオ  
……そう。

間。

優  
おお……。え……。？ おお……。？

シオ  
……

優  
マジ……？

美咲  
……ホントに？

シオ  
(うなづく)

間。

美咲 くん？ ……今、どんくらいなん？…？

シオ ……10週目。

優 ……10週…

間。

美咲 ……相手は？

優 誰なの？ 私たち知ってる人？？

シオ (首を振る) 仕事で会った人……配送やっとする人……

優 ……ああ……そうなんだ。配送……

美咲 付き合っとなると？

シオ ……うん。

優 おおおおお……え、どれくらい？ 付き合っつて。

シオ ……2年くらい……

優 ああ……結構……うん……

シオ ……

美咲 どんげんこと？ 決められんって……

間。

美咲 そんな人は、何てゆーとると……？

シオ ？

美咲 ……子供んこと。

シオ ……まだゆーとらん。

美咲 ？ ゆーとらん？

優 ウソ……じゃあ、知らないの？ 彼氏。

シオ ……

美咲 どうして……？ 何で言わんと……？

優 言えないの？

シオ ……

優 ん？ 歳いくつ？ 彼氏。

シオ 二つ上。

優 ああ……。何？ 結婚してくれる感じの人じゃないわけ？

シオ ……

美咲 本気じゃなかと？ 向こうは。

シオ ……

優 あれか、遊ばれてのんか。

シオ ……半年前に、プロポーズされた。

優 ？ おおお……。すごいじゃない。

美咲 じゃあ何？ アンタが、あんまり好きじゃなかと？ そんなんこと。

シオ (首を振る) ……

優 そう。じゃあ問題ないじゃん。

美咲 喜んでくれんと……？

シオ ……喜ぶと思う……家族作りたいてゆつとるけん。

優 ん？ ん？ じゃあ何よ。何も問題ないじゃない？ だってプロポー

ズ……。え？ 受けなかったの？

シオ ……うん。

優・美咲 なんて？

優 あ、ハモっちゃった……

美咲 ……

シオ 考えさせてほしかった……ゆうた。

優 なんで？ だって好きなんでしょ？

シオ ……

間。

美咲 結婚、迷つとると……？

シオ ……（うなづく）

優 だけど子供は……アンタだけで決めていいことじゃないでしょ？  
人の子供なんだから。 2

シオ ……自分でどげんしたかか決めてから……話したか……。

美咲・優 ……

シオ いいの、大丈夫ゴメンなさい。自分で考えて、決めたかけん……

美咲 産みたくなかと……？

シオ ……

優 ……おろすってこと……？

シオ ……ごめん……

優 ……いや、謝られても……

間。

優 ……それであんなに食べてたのか……

シオ ……なんか……食欲がすごーして……

美咲 ……そうなんやね……

優 ……まさかシオが……

美咲・優 ……びっくりだわ。

美咲 ……うん……

間。

美咲 ……どうする？……帰ると……？

優 ……いや……だけでも……

シオ ……

美咲 電車乗る？ こんまま。

優 ? 乗って、どうするの？

美咲 移動すると。

優 どこに？

美咲 わからん。どっか田舎の方とか。駅員さんに安全かとか聞いてさ。

優 ……

美咲 そこでゆっくり考えれば……？

シオ ……

手記を綴っている美咲。

美咲 「妹の告白を聞いたとき、私は何となく理解した。妹は解らないのだ。

結婚とは何か、家庭とは何か、母とは何か、子供とは何か。私もそうである。つまり私たち姉妹が抱えてる問題はそれなのだ。父親を知らず、あの母と共にいた私たちには解らないことが多い。自分が解らな

いで、妹を正しく導くことが出来ようか。私は長女として情けない気持ちになった」

携帯でLINEをしている優。

優 「移動中。田舎の村を目指しています。色々ビッグニュースがあるんだけど、それは帰ってから。あつくん、私、日本に帰ったら働いてみようかと思っています」

シオ 「こうして私たちは列車に乗り込みました。妊娠のことは姉たちには黙っておこうと思っていたのですが、一人じゃ抱えきれない気持ちになつてしまいました。私の中に確かに宿った命。

断食をする信者たち。逆に栄養を欲して食べまくる私。  
流れていく景色を見ながら、世界は不思議だと感じていました」

場転。

峰子 入りなさい。

三姉妹が立ち尽くしている。

美咲・優・シオ  
……

そこは祖母の部屋。  
峰子の前には布団。

シオ 「母と姉が家を出て行くという主張をお互い曲げないまま数ヶ月が経った

頃、祖母が亡くなりました。真夏のことでした」

峰子 大丈夫、もう起きてこんけん。

美咲、恐る恐る部屋に入る。

続いて、優、シオと部屋に入る。

優 おばあちゃん、……死んどると？

峰子 そう、死んだる。

優 ……

峰子 昼ご飯持ってきたら、死んどった。

間。

美咲 医者は……？

峰子 呼んどらん。

美咲 ？

峰子 呼んでも生き返らん。

美咲 ……だけど……

峰子 ……

美咲 葬儀の人とかは……

峰子 呼んどらん。

美咲 ……

峰子 それよりアンタらに顔見せてやったほうがよかろうと思うて、待ったと。

美咲 なんでも……

峰子 ほら、見んね。

美咲・優・シオ ……

峰子 ほら。

三人、祖母に近づき、  
顔を見る。

優 ……ホントに死んどると……？

峰子 ……うん。

シオ ……生きとるごたる……

間。

峰子 おばあちゃん怖かった？

美咲・優・シオ ……

峰子 シオはまだわからんか。

シオ ……

峰子 怖かったでしょ、2人は。  
美咲・優 ……

間。

美咲 小さか頃おばあちゃんと2人でうどん屋さんに行つてうどん食べた時、私お腹いっぱいになって食べれんで……でも絶対残すなって言われて……私吐いてしもうて……それでも残すなって言われて……無理矢理食べさせられて……

シオ ……無理矢理？ 吐いとるとに……？

美咲 ……全部食べさせられた……死ぬかと思った……

峰子 ……そう。

シオ ……うどん嫌いなので、それで。

美咲 ……

優 私ラーメン屋に2人で行ったとき、ラーメンの汁なんて絶対飲むなつて言われて、麺と具しか食べさせてもらえなかった……。すっごい飲みたかどに、絶対スープ飲ませてくれなかった……

シオ ……ああ……

優 身体に悪かって。

シオ ……それで今、ラーメンのスープ一滴残さず飲むんだね……

優 うん……大好物になった……

美咲 じゃあよかたい。

優 ああ……

美咲 それ全然つらくなか。

優 まあ、そうたいね……

峰子、立ち上がり、口紅を取り出す。

優 あ、そん口紅……

美咲 なん？

祖母の顔をよく見る峰子。

峰子 昔は今よりもっと貧乏でね……だけどこん人あんまり働かんで……

シオ  
？

峰子 クリスチャンは今あるもので満足する、とか、慎ましく生きるのが神様に喜ばれるとか何とかゆーて……子供ん私連れて、一軒一軒奉仕活動で家回って、私が聖書読んで……、寄付ばくれだとか何だとか……。私は猿回しの猿よ。

だけどころ人、教会に寄付するために渡されたお金ば使い込んだとかで、いきなり破門のごとになってね。仲間もおらんごとなって……

優 ？ そうなん……？

峰子 ……

優 ホントに使い込んだと？

峰子 知らん。

優 ……

峰子 ……それからたい、こん人、殆ど家の外出らんごとなったと。外に出る用事は全部私。料理だけ、こん人やったと。あとは外の世界の文句ばかり、いずれ罰の下る。外ん世界の人間には罰の下る、許せん許せんって。

美咲・優・シオ  
……

峰子 まあそれから厳しくされたよ。外に出るときの服、歩き方、口のきき

方、マナー、聖書の教え。少しでも反発したら、叩かれて二日くらい物置にぶち込まれたとよ。

優 ……どうして？

峰子 ん？

優 ……どうしてそげんことしたと？

峰子 復讐。

優 復讐……？

峰子 こん人は教会から排斥になったけど、娘ば立派に育てとる。世間にそう言われたかつたとよ。私ば外に遣わして、皆に私ば見せつける。そぎゃんして自分ば罪人呼ばわりした人達に後悔させて、復讐しとるつもりになつとつたとよ。

優 ……

峰子 そう。……私は結局猿回しの猿。

間。

峰子 馬鹿でしよ。

間。

美咲 でも言うこと聞かんかったとね。

峰子 ん？

美咲 だってお母さん……今……そげんたい。

峰子 (少し笑う) 頑張って努めとった時代もあつたけどね……まあ、ある時からずっと反抗期よ。

美咲 ……

峰子、口紅を祖母に塗る。

美咲・優・シオ ……

峰子 質素でよか、化粧なんていらんとかゆうとつたけど、ホントは人の目ばっかり気にしとつた人やったけん……

塗り終える峰子。

美咲 いや……ちよつとはみ出とるよ。

峰子 よかと。

美咲 やるならちゃんどやってあげんね。

峰子 よかと……

美咲 わざとやつとると……？

峰子 ……あと燃えてなくなるだけなんやけん……

美咲 ？

峰子 こげん、あつさり、はい死にました、はい燃やして終わりです。つて言われてもね、こっちはおさまりつかんつて話よ。

美咲・優・シオ ……

峰子 こつつんなに安らかな顔で……！ スツと逝かれてもね……こっちは色々あると。何十年と、色々あるとよ。こげん安らかな顔では逝かせん。それくらいしかもう、私のやれることなんてなかとやけん……！

美咲 ……

シオ 母はその時泣いているようでした。そんな母を見たのは初めてでした。

優がティッシュを峰子に渡す。

優 はい。

峰子 (受け取る) よかよ、だけん、アンタらも私んときに落書きして。

優 落書き？ そげんことせんよ……！

峰子 (祖母の顔をマジマジと見て) ……勝手に私ばここに縛り付けて、勝手に自分だけ先に楽になって……

シオ ……

それを見ている三姉妹。

シオ 「だから私たちは重石だったのだと、そう思いました。祖母には母が必

要で、母は祖母を一人置いてどこかに行くことが出来なかったのです。

この土地から自分の足で逃げ出さないよう、私たち子供が必要だったのではないかと。しかも一人では足りず三人も。それくらいの重石が

無ければ、母の浮力が勝って、ふらっと飛んでいってしまう、そう考えたのではないかと思いました」

峰子　こんヒト、私に……三人も子供作って何考えとるってね、怒鳴ったとよ。

美咲　？　お婆ちゃんが……？

優　……なんで？

峰子　……

シオ　……どうして？

峰子　アンタの身体の中には、私から引き継いだ原爆のある。

美咲・優・シオ　？

峰子　産むな、って。

美咲・優・シオ　……（祖母を見る）

峰子　孫……楽しみにしとるわ。

美咲・優・シオ　？

峰子　……アンタらがどんな母親になるか、興味のある。

峰子、去っていく。

異国に戻る。

【第一幕・終】

# 【第二幕】

異国。

優 「無事だよ。いい感じの田舎町に到着。そういえばお母さんの骨なくなつた。わら。もう何で旅行してるのか意味不明。だけどようやく楽しくなつてきた。スタンプ」

駅から出てくる三姉妹。

優 おわーっ、すごい、いい感じー。

写メを撮っている優。

周りを見渡す美咲とシオ。

美咲 なんか落ち着くね。

シオ ……長崎に似とる。

優 似てる？ どこが？ 全然似てないよ（笑）

シオ え……でも何となく、感じが。

優 そうかなあ……？

シオ 似とる。

優 うーん……

シオ、ガイドブックを見ている。

シオ 「私たちはしばらく田舎町のメイン通りだと思われるところを歩きました。車の通行は禁止されており、路面電車がのんびりと走っていました」

優 はいチーズ。はいチーズ。はいチーズ。

優の携帯で記念写真を撮る三人姉妹。

美咲 で、あつくんに送るとやる？

優 え、悪い？

シオ そんげんLINEすることあると？

優 (LINEをしている) いやあるよ。

美咲 「石畳の道を歩き、私たちは何となく町の寺院に入った」

寺院に入る、三人。

優 わー！ すご……

美咲 「青みがかったライトグリーンのタイルの装飾、その美しさに私たちは目を見張った」

シオ 綺麗……

優、写メを撮る。

優 え、すごくない……？

シオ すごかね……

優 ……お母さん、こういうの見たかったのかな……この国に来て。

シオ さあ……全然イメージわかんけど、あん人がこれに興味持って見とる姿。

優 ああ（笑）……

シオ ……飛んでいけばどこでもよかったとでしょ……

優、LINEを送る。

シオ もう送つとると？ ホントに仲よかとね。

優 別に普通だよ。

シオ 「そう言って笑っていた優姉ちゃんの表情が、みるみると変わっていき  
ました」

先を歩いている美咲。

美咲 もう、行こうか。

優 （携帯を見ている）……は？

シオ どげんしたと？  
美咲 なんやっとなんと？

間。

優 派遣辞めたって……  
シオ え？  
優 アイツ派遣辞めたって。てか働くの辞めたって。  
美咲 ん？ 働くの辞めたって何？  
優 いや、そのままの意味。  
シオ え、なんで？  
優 バンドに専念するって……  
シオ は？ 嘘でしょ？

間。

美咲 あら……

シオ ん？ でも……どうすると？ 仕事辞めたら……生活……

優 私が……働くような、ことが、書かれて、ある……

美咲 うそ……

優、携帯を差し出す。

シオ  
？

優、LINEを読み上げる。

優 『働くって言うてくれてありがとう。やっぱり旅の力って凄いね。色々

考えてくれたんやな。実は俺もそのこととずっと悩んで、自分か

ら優に言うべきやないって決めてた。だって専業主婦を条件で

結婚したから、それを俺から言うのはルール違反やないかと思ってた。でも優

がそう言うてくれて、ようやく派遣辞めることが出来た。バンドは片手間でや

るほど甘いものやないしな。結婚してから俺、やっぱり突き抜けてないなって

感じてた。優もそれは感じてたと思う。これで本当に夢に向かって専念出来る

美咲・優・シオ  
……

よ。俺の好きな俺でいることが出来る。優の夢も背負って俺、頑張る。俺を支えてほしいなんて甘え過ぎやと思うけど、きっとその分は生き様で返せると思うんで、これからも、いや、これからは『ヨロシクね』

間。

シオ え……代わりに働くってゆうたと……？

優 そういうつもりで言ったんじゃない……

シオ ああ……

間。

美咲 あっくんて今、いくつよ……

優 33です……

間。

美咲 ああ……

優 しかも……ベースです。

美咲・シオ ……

間。

シオ でも……バンド取ったらあつくんじゃ無くなるとやる……？

美咲 うんうん。

優 いやバンドだけのあつくんも困る。

シオ そうさね……

美咲 そうさね……

優 ふざけんなよ！ なんでやねん！ 馬鹿じゃねえのアイツ！

シオ まあまあ（笑）

優 駄目だ！ もう駄目だ！ 離婚だこれ！

シオ ええええ。

美咲 いやいや、帰ったらさ、ちゃんと話し合えば？ ね。

優 だって借金あるんだよ?? 馬鹿でしょホント!

美咲 うんうん、そうやけど。

優 だからもう! お姉ちゃん貸してよお金。

美咲 は? 何でそうなの? なかってば。

優 だから浩孝さんと結婚してよ。

美咲 なんゆつとるとアンタ。

優 だって浩孝さんお金あるでしょ。ネット通販で儲けてるじゃん。

美咲 なんでアンタの借金のために結婚せんばいけんとね。

優 だって一気に返すしかないんだもん。そうじゃないとずっと利子だけ

払う生活。もう嫌だ! もう無理! だって利子返すために働くって

何?? ぜっんぜんモチベーションがあがらんわ!

シオ うーん、まあ、そうやけど……

優 だからお姉ちゃんお願い。結婚して。

美咲 なんねそれ。

優 借金無くなったら夫婦でちゃんとやり直すから!

美咲 いやいや、今からやり直さんね。バンドやめさせてさ。

シオ うん。ていうかモスクで話すことじゃなかよね。

間。

優 え、でもさ、なんで結婚しないわけ？

美咲 は？

優 なんで？

美咲 なんてって何？

優 だってもう付き合ってた何年？ 5年以上経ってるでしょ。

美咲 ……8年だよ。

優 (シオに) 8年……！ ほらちよつと8年だよ？

シオ ああ……

優 なんで？ 結婚しようって話になんないの？

美咲 いや、なるよ。

優 なるでしょ。

美咲 そんなの何回もあるよ。

シオ じゃあなんで？

美咲 ……

シオ 嫌なの？

美咲 嫌っていうか……向いとらん。

優 向いてない？ 結婚に？

美咲 そう絶対向いとらん。

シオ どうして……？

間。

美咲 好きな人が……出来る。

優 うん？

美咲 ……

シオ どういうこと？

美咲 だから……他に好きな人の、出来ると……出てくると。

シオ ? 出てくるって何？

優 次々について……？

美咲 ……はい。

優 え？ で、どうしてるの。

美咲 ……その都度別れとる。

シオ ? その都度??

美咲 そうだよ。ちゃんと別れとるよ。

優 ちゃんにとって、……それで、その好きになった人と付き合うの?

美咲 まあ、付き合ったり、そこまでいかんかったり。大体すぐ終わっちゃうね。

優 なんて?

美咲 わからんよ。そうでもなかったなっと思って思うときもあるし、思いっきり

フラれることもあるし、なんか続かんとさね。

優 で、また、浩孝さんと付き合うの?

美咲 お互いフリーのときにね。っていうか、私がフリーのときに。

優 うわ、なんか最低。

シオ え、じゃあいつつも待つとると? 浩孝さん。お姉ちゃん別れると。

美咲 いや、それはわからんけど。

シオ だって浩孝さんは別の女の人と付き合ったりしとらんとでしよ?

美咲 だってモテもんあん人!

優 ええええ……いや、えええええ最低。

シオ お姉ちゃんは好きじゃなかと? 浩孝さんのこと。

美咲 うーん……まあああ……好きだけど、でもそれより好きな人が出来ちゃうとよ。

私だって困つとるとやけん……！

優 困ってるって、そんな好き勝手、よく許してくれるね。

美咲 好き勝手って、別に浮気してるわけじゃなかけん。ちゃんと別れとるとやけん。

優 けどそんな、えええ？

優・シオ サイテー！

優 自由過ぎるでしょそれ。都合良く利用してるだけじゃん。ちよつとは我慢とか出来ないの？

美咲 我慢？

優 それじゃまるであれだよお姉ちゃんー。

美咲 ？

優 お母さんだよ。

間。

美咲 ……違う。

優 いや一緒だよ(笑)

美咲 違うけん……！

優 じゃあもう結婚しなよ浩孝さんと！ それ可哀想だよ。

美咲 可哀想？

優 可哀想でしょ？ ちゃんと結婚して、そして私にお金貸して！

シオ いや、それは違うでしょ。

優 だって浩孝さんしかいなよ？？ そんなお姉ちゃんを許してくれるの。

美咲 だから許してくれたら困ると。

優 ？

美咲 結婚して、また好きな人出来て、そしたら次は離婚でしょ。それ洒落

にならないでしょ。今度また付き合おうじゃ済まんでしょ！？

優 そりゃ済まないよ。

美咲 ほら。もしそのとき子供おったらどうする？ それでも好きな人選んで

子供ほったらかしたら……ホントにあん人んごとなっちやうつたい！

優 だから結婚したら覚悟決めてフラフラするのやめるんだよ。

美咲 いや、自信ない。

優 そんなにきつぱり？

美咲 自信ないね。

優 ええええ……

優・シオ 最低ー！。

美咲 現に今、また別れそうやもん。

優 ええええ……

シオ そうなん？

優 また好きな人が出来たと？

美咲 まあ……気になる人？

優 ええええ、ウソ……

美咲 でも今度はこっちからじゃなかけん、向こうからそんげん態度見せてきたけん。

優・美咲 ……

シオ (優に) お母さんやね。

優 そうだね。

美咲 違うけん……！

優 ああああお母さんの血、やっぱりねええ。

美咲 なんねそれ。

優 いやあああ、お姉ちゃんがねえええ。

美咲 いやいや三人とも流れとるけん……！

優 だけとお姉ちゃん、それかなりお母さんテイクだわ！

美咲 何ソレ。

優 いや、だってねえ！ その感じ（笑）

美咲 だから私は結婚せんし、子供作らんって決めとると！

優 え、そうなの？

美咲 ……

優 決めてるの？

間。

シオ ……それ、お母さんのごとなりそうで……？

美咲 あ……ゴメン……別に、シオは大丈夫だよ……

シオ ……

美咲 いやいやホントに。

優 うんうん……それ、まあ、お姉ちゃんの考え方だしね。

美咲 そうそう。

シオ ……

美咲 なんてこんなところで、こんな話……

シオ そうなんだ……

美咲 いや、別にそれだけが理由じゃなかよ（笑）？ ていうか、向いとらんって思っただけ。そそ、結婚とか、私は、向いとらん、それだけ。

優 まあ、個人の考え方だから。

美咲 うん、血なんて多分関係なかよ、ていうか全然関係なか。

優 そうだね。

シオ 優姉ちゃんは？

優 はい？

シオ 優姉ちゃんは、結婚しとるとに何で子供つくらんと？

優 ええええ（笑）私？

シオ なんで？

優 うーん。

シオ ……欲しくなかと？

優 いや、そういうわけじゃないんだけどおお……

シオ やっぱりお母さんのことなりそうやけん……？

間。

優 いや。うん。それはない、と思うよ。

シオ ホントに？ 全然思わん。

優 ……

間、

優 ……わかんないよ、そんなの。

シオ ……そう。

間。

シオ ねえ、やっぱり私たち、ちよつとおかしかとじゃなか？

美咲 おかしか？

優 何が？

シオ だって、普通は欲しかって思うもんじゃなかと？ 女なら、産みたか

って、思うもんでしょ?? やっぱり私たち普通じゃなかとさ。

優 ん? どしたどした(笑)?

シオ だって周りみんな言つとるよ?? 欲しかった。産みたかつて。普通そんげんもんでしょ!!?

美咲 別に私だって思わんわけじゃなかけん……!!

優 そうだよ?

シオ じゃあなんで結婚せんと? 作らんと?

美咲 いやいや(笑)

シオ やっぱり私たち変なんだよ。お母さんの血引いてるから、欲しかった思わんとよ……!!

美咲 うん、シオ、落ち着いて。ね。

優 だってお母さん、三人も産んでんだから、大丈夫でしょ。

シオ ……あん人は、欲しかと思つて産んだわけじゃなか……。

美咲・優 ……

シオ 重石でしょ。

間。

美咲 ……そがんこと考えて、何になる。

シオ ……？

美咲 仕方なかでしょ、そがんことに悩んどったって……

優 まあまあ、お姉ちゃんお姉ちゃん。

美咲 ……

優 ホラいこ。とりあえずいこ。

シオ ……

シオ、歩き出す。

それに続く優。

美咲 「この時をきっかけに、私たちは次第に言葉を交わすことが少なくなっ

た。都市の方に戻ってきてからは別行動を取るようになっていった。

それぞれがそれぞれの問題を抱えながら」

シオ 「私は1人で町を歩いて考えていました。中絶手術が可能な時期

は妊娠12週未満。あと2週間弱でした」

優 「長文読んだよ。そうなんだね。わら。今1人で飲んでる。みんな多分、旅疲れ」

シオ 「産みたくないと思いました。産みたいと思いました。代わる代わるにその二つが回転し、混ざり、何かわからないものになるのです。原因は母にあるのか、私にあるのか、焦りが募るほど一体自分が何に悩んでいるのかわからなくなっていました」

美咲 「この旅を安直に画策したことを私は後悔し始めていた。私の結婚や出産に対する考え方を今の妹に聞かせるべきではなかったのだ。私たちは女として普通じゃない、その言葉が耳に貼り付いていた」

場転。

荷物を持った美咲が、店に入ってくる。

美咲 お母さん……

峰子 ……？

美咲 酒くさ……

峰子 ああ……朝まで帰らん客のおつてね……

美咲 いや、もう昼やけん。

峰子 何か冴えちやつてね、ちびちびやつとるとさ。

美咲 だけん昼よ、もう。

峰子 わかつとるさ。

美咲 久しぶりやわ……店来たと。全然変わつとらんね。

峰子 どげん変わるっていうとね。

美咲 ああ(笑)……

峰子 で？ 何。

美咲 何って……行くとやけど私。

峰子 うん……

美咲 ……

峰子 今までお世話になりましたって言いにくさと(笑)？

美咲 ……

峰子 ああ（笑）……それとも私がお礼言わんばならんとね。  
美咲 別に……  
峰子 東京……うん……東京の大学か……うらやましかね、楽しそうでね。  
美咲 ……

間。

峰子 まあ、男には気をつけて。  
美咲 何ソレ。  
峰子 東京でしょ？ 選びたか放題よ。私なら困る。  
美咲 何言うとなると、馬鹿じゃなか。  
峰子 真剣に言つとるとよ。  
美咲 ？  
峰子 気をつけて。アンタが一番危なか。  
美咲 は？  
峰子 もう早よ行け、帰って寝たかと。  
美咲 ……

美咲、峰子に小さな箱を渡す。

峰子　？　何コレ。

美咲　ペン。

峰子　？

美咲　何あげてよかか全然わからなかったけん、ペン。

峰子　……いっばいあるわ。

美咲　うん……

間。

峰子　……まあアンタの勝ちやね。

美咲　勝ち？

峰子　アンタは結局、私の頼みば聞かずに東京の大学に行き、私は白瀬くんに逃げられた。

美咲　……

峰子 おめでとうございます。  
美咲 やめて。  
峰子 さぞかし輝かしか未来の待つとることでしょうよ。  
美咲 何？  
峰子 いや、褒めとるとよ。  
美咲 ？  
峰子 そう……アンタはね、結局最後には自分ば押し通す。  
美咲 ……？  
峰子 そんげん意味では、実は一番わがままはアンタだ（笑）  
美咲 ……違うし。  
峰子 そうなんだよ。似とるとさアンタ私に。  
美咲 ……？  
峰子 きっと私んごとなるよ（笑）  
美咲 ならん。  
峰子 ……  
美咲 似とらん。

美咲、出て行こうとする。

峰子 ちよつと待て。

美咲 ?

峰子 アンタ今、誇らしげに出ていこうとしとるけどさ、自分で選んだことしとるけどね、違うけんね。

美咲 ……

峰子 私が許したとやけん、誤解せんと。私が、出してあげたとよ？ 理由は、まだ私の世話ばする娘の2人おるけんよかって、それだけだよ？ 運のよかったとよ？ 感謝せんばね運と妹2人に……！！

間。

美咲 なんで、そげん言い方しか出来んとやろうね……

峰子 ……

美咲、頭を下げる。

峰子 ？

美咲 今までお世話になりました。

峰子 ……

美咲 あんまり優とシオに負担かけんでよ。

峰子 出てけ。

美咲 ……

美咲、去る。

峰子 ……

美咲 「思えば母は、私を娘というよりは1人の女として見ていたような気がする。そこに母性はなく、妬みや嫉みが渦巻くまさに女のそれであった。だとすれば、私が母に母親を要求しなければ、きっと別の会話があったに違いないのだ。そんなことを今になって気づいてしまい、私はやりきれない気持ちにかられた」

場  
転。

峰子、テーブルに座り便せんを読んでいる。  
側に優が立っている。

峰子 はい……読んだばい。

優 どげん……？

峰子 どげんって何？

優 いやだけん、感想。

峰子 感想って言われてもねえ……

優 駄目？

峰子 いや、何で私に聞く？

優 結局、一番男性経験豊富なお母さんに聞くのがよかと思って。

峰子 アンタ自分の親によーそげんこと言えるね。

優 私だって母親に自分の書いたラブレター見せたくなかさ。

峰子 は？

優 だけど仕方なかと、そんなライブ終わったら、もういつ会えるかわからんし。

峰子 こんなことしてないで勉強せんね。アンタ受験生でしょうが。  
優 わかつとるさ。だけんそれ渡して、すつきりしたか。

間。

優 ちよつと重たか？

間。

峰子 ……字の汚か。

優 ああああ……わかる。

峰子 字の綺麗な子に書き直してもらわんね。そこ一番大事。

優 はい。

峰子 それから、長か。

優 うそ、長か？

峰子 もっと簡潔に。出会ったきっかけから好きになった経緯ばそんなに長

々書かれてもダルか。

優 あああ、そう？

峰子 必死さの伝わって悲惨たいね。

優 悲惨！？

峰子 『お友達になってくれませんか』程度のサラッとした感じでよかとよ。そもそもラブレター渡しとる時点で告白しとるようなもんだから、あんまり色々重ねんと。

優 ……なるほど。

優、直し始める。

峰子 え？ ここで直すと？

優 うん、すぐ聞けるごと。

峰子 ……

優 (一生懸命直している)

峰子 ……ああ、それからその、例えるのやめんね、星に例えて2人の距離

優  
（書きながら）はい。  
がなんちやらとか……気持ち悪かけん。

間。

峰子  
（優を眺めながら）……バンドマンなんてやめとかんね。  
優  
いや、そういうのは聞いとらん。

峰子  
アンタ専業主婦になるとでしょうが、バンドマンなんかと付き合っ  
どげんする。

優  
いや、それはちゃんとなるけん。ていうか付き合ってから考えること  
でしょ？ 順序おかしかよ。

峰子  
（ため息）……アンタは、ホントに……

優、作業をしながらの会話となる。

優  
お父さんとは？  
峰子  
？

優 どっちから告白したわけ？

峰子 ……何ソレ。

優 ん？ どっちかなと思うて。

峰子 ……

間。

峰子 別に恋愛結婚じゃなかけん……

優 (顔を上げて) お見合い？

峰子 ……まあ、そがんごたるもんたい。

優 へえ…… (再び作業)

峰子 ……

間。

優 好きな人は？ おらんかったと？

峰子 は……？

優 え、だっておっいたらねえ、嫌じゃなか？

峰子 ……

優 あ、これあれか……行間あけといた方がよかとか……

峰子、優の便せんを取り上げる。

優 ？

峰子 なんでそげんこと聞く。

優 ……

峰子 今まで一回も、そがんこと聞いたことなかった。

間。

優 ……うまくいきたいから、お母さんより。

峰子 ……

優、峰子から便せんを取り、

再び作業。

峰子 ……そう。

優 ……

峰子 いたよ……ひどか男やったけど。

優 へえ……お父さんよりひどかど？

峰子 まあ……ある意味では……

優 ……

峰子 なんにも言わん人やったね……

優 長崎のひと？ まだおると？

峰子 さてー。

峰子、立ち上がる。

優 え、どこ行くと？

峰子 仕事たい。

優 ちよっと待ってよ、これ終わるまで。

峰子 嫌ばい。あと自分でやれ。

優 ええええ……ああああ……ふられる……

峰子 何ソレ。

優 私可愛くなかけん、ふられる……

峰子 アンタ可愛かよ。

優 ?

峰子 アンタが一番可愛か。誰かには大事にされるさ。

間。

優 ? どんげん意味。

峰子 そがんもん見せにお店に来んでね。

峰子、去る。

優 ……

携帯でLINEをする優。

優 「やっぱり意味わかんない。何で勝手に仕事辞めるの？ 私、あつくん

の夢のために働くと言ったわけではないです。借金があるからです。

借金を増やすバンドで借金返せるんですか？ いい加減現実見たらど

うですか。私のこと、大事に考えてくれますか？ しばらく連絡し

てこないで下さい」

場転。

シオ 「私たち三人の空気は相変わらず重たいものでした。

その日、私は宿から出ずに本を読んできました。

考えることを止め、全てを保留にしていました。夕方、姉2人が帰ってきました

た。酒瓶を持っていました。2人とも酔っているようでした。姉は東京に出て

行く日の母との会話を、優姉ちゃんはラブレターを母のアドバイスで書いてい

たときの話を告白し合っていました。

2人は機嫌がよいように感じました。そのことが何故か私を苛立たせ

ました。私は無視をするように努めていたのですが、ある会話に思わず声を発してしまいました」

シオ 私言われたことなか……

優 ん(笑)？

シオ ……

美咲 ？ 何？

優 急に。

シオ お母さんに似てるなんて言われたことなか。

間。

優 あ、そう。

美咲 まあ、シオは似とらんね。

優 うん。

美咲 なんか、あん人のさ、偏屈なところ似とるって言われてもね。

優 あああ。

美咲 わがままなところの似とる、だよ（笑）

優 私、万引きするの似てるだよ（笑）

美咲 ああ（笑）それはひどか。

優 どんな遺伝子だって話よ。

美咲 ま、確かに。

シオ 何か、似とるって言われて嬉しそうだね。

優 何？

美咲 いや別に嬉しくなかよ。

シオ 私やったらショックだわ。

美咲 ？

優 そう？ 私別にショックじゃないけど。

シオ そうなんだ。

優 何？

シオ いや。

シオ、再び本を読む。

優 アンタ、言いたいことあったら言えば？

シオ ?

優 ウジウジと何考えてるか知らないけどさ、滅入る。

美咲 ちよっと、優。

優 パーツとき、晴れやかになるためにさ、来てんじゃないの？

シオ ……何か……あんん言方と同じ(笑)

優 は？

美咲 まあ仕方なかでしょ、妊娠しとるとやけん。

優 え？ だから何なわけ？

美咲 は？

優 自分で決断出来ないの全部あの人の所為みたいに考えてさ、おかしくない？

シオ おかしか？

優 いや、あの人だつてさ普通に、ただ幸せになりたかつたつてだけでしょ？

シオ どんがん意味？

優 いろいろ苦労してさ、だから必死で幸せになろうとしたんじゃないのつて話。

美咲 はいはいわかったわかった、飲み過ぎ。

シオ え？ だからなん？

優 そんな目の敵にして、なんでもかんでもあの人の所為にしなくてもさ。  
シオ してる私？

優 してるよ。子供ほしくないのが普通じゃないとか言って、あの人の所為だと言って言ってるわけでしょ（笑）？

シオ ……

優 そんなのアンタの気持ち一つでしょ。

シオ ……

優 もうさ、このへんで許してさ、いいんじゃないの。よくよく考えたらそこまでひどくされたわけでもないんだから。

美咲 いや、された。大変やった。

優 お姉ちゃんはね。でもシオなんて、言うほど何もされてないじゃん、いっつも戦ってたのお姉ちゃん。と私。

美咲 いやアンタはちよつと好かれとったけん大変じゃなかったでしょ（笑）

優 おい（笑）！ 好かれてないし、私だって大変だったよ！

美咲 そうかなああ……

優 そうだって。

シオ ……私だって大変だった。

優 何が？

シオ ……

優 何がどう大変だったの？

間。

シオ お姉ちゃんたち2人も出て行くけん……私一人で、ご飯作って、酔

っ払ったあの人が抱してー2人よ？ 2人暮らしよ？ 1人であん

人ん面倒見とったとよ？ 大変なことくらいわかるでしょ。

美咲 うん、それはそうだな。

優 でも、大した喧嘩とかにならなかったんでしょ？ 言ってたよお母さ

ん、別に喧嘩しないって。

シオ ……

優 私たちよりマジだよねえ。

シオ 違う……

美咲 まあ、シオは利口だから、私達の喧嘩も見てきとるし、扱いが上手か

ったったい。

シオ 違う……マシじゃなか。全然マシじゃなか。

美咲 ？

シオ 無言。……いつも無言。ご飯作ってもなんも言わずに残す。まずかとも言ってくれん。嫌がらせんごと黙って出て行くとよ。

間。

優 ……いいじゃん、別に、静かで。

美咲 まあ、……浮き沈みの激しか人やけん。

シオ 違う。あん人は、本当に私んこと好きじゃなかった。

美咲 ええ？

シオ 本当に本当に、好きじゃなかったと思う……

優 何なのソレ(笑)

シオ 私ば、嫌っとなった。

優 (ため息)

間。

美咲 あのさ、シオ。そこまで言いきることもなかとじやなか……？  
シオ ……

シオ、突然の吐き気。

シオ (口を押さえる) !

美咲 どうしたと?? 気持ち悪か!?

優 え? つわり? つわりってやつ?

シオ (首を振る)

美咲 だって、あんなに食べとって……!

うづくまるシオ。

優 シオ、大丈夫!

シオ (呻く)

美咲 病院、病院じゃなかコレ。

優  
そうか……！え……どうしたらいいんだろ。

シオ  
「……私が病院で妊娠していると言われた日……」

美咲  
……何？

優  
どうした？

シオ  
「私は頭が真っ白になり、家の周りを何周も歩きました……」

美咲  
……シオ？

シオ  
「そして私は、母にこのことを打ち明ける覚悟を決めました。隠し通せるものではないと思ったのと、何より、頼れる人が母しかいませんでした」

長崎の家になっていく。

シオ、帰宅。

シャワーの音。

男物の衣類が脱ぎ捨てられている。

シオ ただいま……

峰子 (バスルームに向かって) だからそんなげんことは気にせんでいいの  
(笑) 自分の家なんだから。

峰子が酔っ払いながら。

シオ 誰か来とると。

峰子 ああ、おかえり(笑)。早かったね。

シオ 遅かよ。

峰子 あ、そう(笑)？

シオ ……

峰子 ほらこれ、水沢さんが買ってきてくれたと。ご飯。百貨店でワザ  
ワザ。美味しかよ。アンタご飯食べた？

シオ ……まだ。

峰子 じゃ食べんね。

峰子、男の服を持ってバスルームへ。

峰子 ん？ なんゆーとると、帰らんでよか。ほらっ、ハイ！

シオ、部屋へ行こうとする。

峰子 (出てきて) ちよちよちよ……！ どこ行くのアンタ。

シオ ?

峰子 食べんね。折角水沢さんが買ってきてくれたとやけん、ほら。

シオ 食欲なかし。

峰子 なんゆーとると、今お腹空いとるって言うたじゃなかね。

シオ いや、言っとらんよ。

峰子 なんゆーとると、ゆったよ。

シオ ゆっとらん。

峰子 いいから、座って食べんね。

シオ ……

シオ 酔っ払っとると？

峰子 はああ(笑)？ 飲んどるとよ見てわからん？ 酔っ払っとるに決ま  
つとるでしよ。よかけん食べんね。

シオ ……

峰子 それ食べたらさ……アンタちよつと散歩でもしてこんね、外。  
シオ ？

峰子 一時間くらい……二時間くらい。

シオ なんて。

峰子 なんてって……わかるとじゃなかと。

シオ ……

峰子 気いつかって。

シオ ……

シオ、吐き気をおぼえる。

峰子 ？……何

シオ ……気持ち悪い……

間。

峰子 (不愉快になる) 気持ち悪いつて、何なんそれ……

シオ ……ちよつと、話したかことあるとけど……

峰子 よかけん出てって……

シオ ……

峰子 ……アンタもう、そろそろこん家出たほうがよかとじゃなか？

シオ どういうこと……？

峰子 水沢さんも、これからこん家に住むことになるけん。アンタだって気  
い使うでしよ。そげん……いちいち気持ち悪がられても、こつちも嫌  
ばい。

シオ ? 聞いとらんよ私。

峰子 ……

シオ なんでそげんこと勝手に決めとると……

峰子 私ん家でしよ。

シオ ……病気んこととか、ちゃんと話しとると？

峰子 別にそんな、大げさに言わなくても、問題なく暮らしとるでしょうよ。

シオ ……

峰子 アンタ、水沢さんにゆーたら、承知せんけん。

シオ ……

シオ、バスルームの前に立つ。

シオ 水沢さん、帰って。

峰子 ……は？

シオ 帰ってもらってよかですか？

水沢さん、私はあなたがこん家に来ること許可してないので、帰ってください。

峰子 は（笑）許可？

シオ ここは、こん人だけの家じゃないんで。私来られたら迷惑なんで。

峰子 ちよつとアンター。

シオ 私の方がお金入れとるとやけん権利あるでしよ。

峰子 ……？

シオ もし2人で住みたかなら、どっか別のところ借りて住んでください。

峰子 アンタん家じゃなかけん！

シオ それからご飯は私が作ったのが今日だって用意してあります。勝手にこんがんもの買ってこられるとも迷惑です。

峰子 ちよつと、何てこと言うと？

シオ というか、暮らすっていいですけど、水沢さんは母と結婚する気のあるってことですか？ 母を養う気のあるってことですか？ こん人お金掛かりますよ？ よかとですか？

峰子 シオ！

シオ それともいい歳して養われるつもりなんですか？

シオを叩く峰子。

シオ ……言いたいことゆうても、叩かれる……

峰子 は……？

シオ 結局、どっちにしても、叩かれるとさね。

間。

峰子 は……？

バスルームから出てくる音。

峰子 ？ え、ちよつとちよつと！ 待ってシゲくん！ 待って！

玄関に向かって、追いかける峰子。

峰子 よかとよかと！ あん子の言うことなんて気にせんで！ ね！

玄関から出て行く音。

峰子 ちよつとシゲくん！

玄関の音が閉まる音。

峰子 ……  
シオ ……

シオ、座る。

峰子 アンタ……何なの……？  
シオ ……  
峰子 何なのよ！

間。

シオ あん人はやめといた方がよか。  
峰子 は？  
シオ あん人ね、よく来るとお土産屋さんに。  
峰子 ……？  
シオ それで、誘うと。……私ば。

峰子 ……誘う？

シオ そう。飲みに行かんか、とか、遊びに行かんかとかね。

峰子 ……

間。

峰子 ……そいが何（笑）？

シオ ……

峰子 別にそがんこと、大したことじゃなかとですけど。

シオ 家にも来るとよ。

峰子 ？

シオ お母さん、仕事のときとか、ここに。

峰子 ……

間。

峰子 そいで…？

シオ ……

峰子 何かしたと(笑) ……?

シオ せんよ。すぐ帰ってもらうけん。

峰子 ……

峰子、座る。

峰子 え？ じゃあそいが何(笑)？

シオ ……

峰子 別に何でもなかないね？ 付き合つとる女の娘気にかけてくれとるだけでしょ(笑)？ 変なこと言わんでくれる？

シオ だけどお母さん知らなかったでしょ？ あん人がこん家来とるとか、聞いとらんかったでしょ？

峰子 別に、ゆうとつたような気もするたい。

シオ 嘘。

峰子 迷惑やけんやめて！

シオ 迷惑？

峰子 そがん話迷惑なだけやけん！

シオ 何ソレ。

峰子 馬鹿じゃなか（笑）土産屋に来たとか、家に来たとか、普通やけん！

子供かアンタ！

シオ 触られたよ

峰子 ？

シオ ここで……、触ってきた、私に。

峰子 ……

間。

シオ ……

間。

峰子 ……へえ……

シオ もっと……はよう言おうと思っとなとけど……

峰子 ……

シオ ごめんなさい……

シオ だから、多分……ひどい人だと思う。

間。

間。

峰子 いやいや(笑)……どうってことなかとよ、そげんこと……

シオ ?

峰子 別に、どうってことなかことたい……

シオ 何ゆつとると?

峰子 いや、アンタだよ。

シオ ?

峰子 ……原因は……アンタ。わかるもん私。

シオ 何……?

峰子 アンタが、そげん風な態度取つとつたとよ。

間。

シオ ……え、意味がわからん（笑）。そんな風な態度……？

峰子 そんな態度取ったとよアンタが。隙つくって！ 思わせぶりな……！！  
どっちとも取れるような……！！

峰子、うずくまる。

シオ ちよつと……何？……大丈夫？

峰子 ああああ……やっぱりえげつなか（笑）……アンタ。

シオ ……どげん意味？

峰子 ワザワザそげんこと、こんタイミングでゆーて。

シオ ？

峰子 黙ったりやよかとに……。大した話じゃなかさがんことは（笑）

シオ 大したことなか……？

峰子 男が若か女に手え出すなんて、当たり前過ぎて眠たくなる話たい。

シオ ……？

峰子 そげんもんどうってことなか話だつてアンタがね！ 私に黙って処理

しときやよかつたとよ！

シオ 何ソレ……

峰子 だけど私はもう聞いてしまったけん！……もう戻れん。今までどおり

にあん男ば見れん。どがんにして努力しても無理！……終わった。……

アンタね、私が架けた最後の梯子ば、思いつきり倒したと。私がどが  
ん思いで……

シオ ？

間。

シオ 私が悪かってゆうと。

峰子 ……

シオ 何？……私が悪かわけ？ 私が何かした……？

峰子 ……

シオ いい加減にしてくれん（笑）？ 頭おかしかとじゃなか？

アンタの為に言ったとでしょ？？ それなのに私？？ アイツじゃなく私？？

アンタじゃなく私?? 何なの! いや、違う! そいは関係なか!  
とにかく嫌っさね! 私が! とにかく私が嫌なんでしょアンタは!  
そげんさね! 一つも一つも一つも! 私が何やつても何ゆー  
ても黙っつても! とにかく嫌なんでしょ! 私だけ違うとでしょ??  
父親が! で似てるでしょそんな人に! でそいがたまらなく嫌な  
んでしょ?? 似とる似とる似とるつて! 言い方、立ち方、目が!  
似てきた! 似とる! 似てきた! 似とる! 好きやった! 思い  
つきり捨てられた! 私見とると思ひ出す! ほつつつんと馬鹿じ  
やなか?? ゆつとくけどね! 産んだのそっちやけん!

峰子、食べ物を投げつける。

シオ (泣きそうに) 食べ物!!

間。

峰子 ……私がつゆつた……

シオ ……？  
峰子 父親が違うなんて…  
シオ ……

シオ、泣いている。

シオ ……ほら、覚えとらん（笑）…

峰子 ……

シオ アンタは…覚えとらんとき。だから夕子の悪かだよ…

峰子 ……何？

シオ 泥酔したら…いっつもだよ。

峰子 ……？ いっつも？

シオ 泥酔したら…私だけに、いっつも…アンタは父親の違う。似てきた、段々似てきた…そげん言つとるとよ？

峰子 ……言つとらん。

シオ ……は。

峰子 そげんこと、言つとらん。

シオ (笑って) どうでもよか。

峰子 ……?。

シオ ほっつんに、どうでもよか。こんがんどうでもよかことつてある(笑) ?  
本当の父親も、そうじやなか父親もどっちも知らんとやけん! 気に  
もならんたい(笑) !

峰子 ……

シオ 産んだとは、そっちやけん。

峰子 ……

間。

峰子 ちよつと、出てくる……

シオ ……

峰子、去ろうとする。

シオ 妊娠した。

峰子 ？  
シオ 私、妊娠しました。

間。

峰子 へええ……  
シオ ……

間。

峰子 アンタが、母親（笑）……笑える。  
シオ ……  
峰子 ……ま、なってみりゃわかることもあるでしょ。

間。

峰子 ……おめでとう……

峰子、去ろうとする。

シオ 産まんけん。

峰子 ？

シオ 孫が楽しみ言って言うと思ったけど……産まんけん。

間。

峰子 それは……仕返しか何か（笑）？

シオ 私も、自分の子供好きになる自信なかけん。そしたら可哀想たい。

峰子 何だソレ（笑）……

間。

峰子 ……産め。

シオ ？

峰子、去る。

シオ 「母とはそれ以来、一切口をききませんでした。そして、それから一週間も経たないうちに、母は死にました。母の店で、朝方一人で死にました。お酒を飲みながら死にました。心筋梗塞でした。何でもないことのように、簡単に、一方的に、母は死にました……」

ホテルに戻る。  
間。

優 ……父親が違うって……

シオ ……

優 何ソレ（笑）……

優、座り込む。

優 嘘でしょ……？ え、本気の話……？

シオ ……私は、そげん言われて育ったけん……

優 ……

間。

美咲 アンタ、ずっとそげんこと思ってたと……？

シオ ……

美咲 自分だけ、父親が違うって……

シオ ……四歳のとき、お父さんが急にいなくなったのって……私が自分の子供じゃないって知ったからじゃなかかって……

美咲 ……

優 いやいや……！ 違うでしょ……！ 関係ないよ（笑）

美咲 ……

優 ……あり得んけん。

間。

美咲 アンタ……そんな……アンタねえ……何でそがんこと一人で、何でそがんこと黙ってた！

シオ ……

美咲 馬鹿じゃなか？ 何でそがん！

シオ (泣いている)

美咲 何でそがん馬鹿のごたる話！ 一人で抱えて！ 何なんアンタは！！

シオ (泣いている)

美咲 言えばよかでしょ！ 私たちに！ 何だと思つとるとね！ 昔っから

アンタは！

シオ (泣いている)

美咲 ほっつんとに頭くる！！

シオ (泣いている) お母さん……私が、ひどかこと言うたから……！ 私

が、滅茶苦茶言うたから……！ ストレスになつて……！ 一人でお

酒飲んで……！ 死んじゃつて……！

優 違う！

泣き崩れそうになるシオ。  
美咲、シオを覆い隠すように抱きしめる。

美咲 駄目！ 違うけん！

シオ 死んじやったあ……！！ 死んじやったよおお……！！ 私ん所為で……！！

美咲 何言うとるとアンタ！ 違うけん！

シオ ごめんなさいいい……！！ ごめんなさいいい……！！

美咲 謝ったら駄目！ あん人が悪か！ あん人が悪かとけん！ お父さん  
も悪かとけん！

シオ (泣いている)

美咲 アンタここで謝ったら生きていけんごとなるよ！ 駄目！

シオ (泣いている)

泣いているシオ。

優 (お酒をラッパ飲み)

美咲 アンタなんで酒飲んどると!?

優 あ。いや、何か気持ち落ちつけようと思って。

美咲 不謹慎でしょ!

優 スイマセン! でもなんか! シオも飲んだ方がよかとじゃなか!?

美咲 妊婦だから!

優 あ、そっか。

シオ 「私が10歳の頃、母は私を近所の森に連れていきました。母は私の前を

黙って歩いていました。私は一生懸命母の後を追いました。離れないように。

離されないように。どこに行くの?とか、どうしたの?とか、私には聞けま

せん。私は母にそういうことを聞けないんです。どれくらい歩いたのか、母は

突然立ち止まり、言いました。『ここで待つとりなさい。すぐ戻るけん』……『こ

こで待つとりなさい。すぐ戻るけん』……そして母は、いなくなりました。

母はいつまでも現れませんでした。辺りが次第に暗くなって……私は

ただじっとして……とても怖くて……。男の人が現れました……。

森で木を伐採する仕事をしていた人でした。……母と森に来てはぐれたと、私

は言いました。私はその男の人に連れられて、歩きました。

美咲・優・シオ

シオ

森を抜け、家に帰りました。家に帰ると母は何事も無かったような顔で『今から行こうと思っと思ったとに』……。『今から行こうと思っと思ったとに』

あの時、私は母に捨てられたのでしょうか……。

それとも、私を森から連れ出したあの男の人が……本当の父親で、私と会わせるために……。私は……それから……。いつも、

母を疑い……。母を信じ……。それを繰り返し……。あの出来事がなんであったのか、母が何であったのか……。今となってはわかりません。

母が死んだ後、母の部屋で遺書が見つかり、私たちは三人でその手紙を開きました。そこには電話番号が二つ。一つ目にかけてみると、葬儀屋でした。母から葬儀費用を受け取っているとのことでした。しかし、実際は半分くらい足りませんでした。二つ目は、栄寿司でした。特上三人前が注文されており、お代は受け取っている、とのことでした。遺書の最後はこうでした」

「美味しく食べなさい。そして感謝しなさい」

「母らしい……。母らしい母の精一杯を感じました……」

異国に戻る。

美咲 やっぱり知ったとね……ずっと前から病気のことは。

優 ん？

美咲 いつ死ぬかもしれんって覚悟してたから……遺書書いてたんでしょ。

間。

優 まあ、そうかもね……

美咲 そうだよ。

シオ ……

美咲 だからさ、シオ、アンタの責任じゃなかと。

シオ ……死にたくないって思えるほど大事なものの、あつたとやるか……

間。

優 てかき、ベタだけどき、4人で来たかったんじゃない？

美咲 何？

優 お母さん。ここに。単純にそれで現れたんじゃない、私たちの前に。

美咲 は……（笑）？

優 いや、ベタだけどき

間。

シオ なかなか（笑）！

美咲 なかなか（笑）！

優 あ、そう？ そうかな。

シオ そげんこと思う人じゃなかでしよ。

美咲 4人で来ても困るわ（笑）

優 そうか。でも……わかんないよ？

シオ そうやけどき。

優 なつつんにもわかんない。なつつんにも。

美咲 わかったよ（笑）何？

優 わかんないでしょ、もう……わかんないことばかりでき、もうわか

んないからああー。

美咲 うん？

シオ どげんしたと？

優 (何故か泣きそうに) 一生わかんないからあ、いいように、好きなよ

うに、いいように、選ばばいいんじゃない(笑)？

美咲 なん言つとると(笑)？

優 だからあ、お母さんはあ、一緒に来たかったんだよ。

美咲・シオ ……

優 そ、うん、勝手に決めちゃえ、ね、もう死んだんだから、いいようにさ。

間。

優 あれ…何で泣いてる(笑)？ これもわかんない(涙をふく) だか

ら……うん……もうやめにしないと。

間。

美咲 ……明日、帰ろうか……

間。

シオ ……うん。

優 ……

場転。

シオ 「何もわからない、何も解決しないまま、次の日の朝、私たちは空港に向かうためチェックアウトをしました。私達は帰らなければならぬ。それだけが唯一わかったことでした」

優 「骨、見つかる。何故かロビーに届いてた。全く意味がわからない。ホントに不思議な旅だった。わら。今日帰ります。スタンプ。あつくん。帰ったら色々と話したいことがあります。夫婦で話して決めなきゃいけないことが、いくつもあるのだと思う。お土産買ってくねー。すき。スタンプ」

優 (骨を見ながら) 逆にめんどいわ

シオ もういいんじゃない？ そこらへんに捨てていけば。

美咲 えええ？

美咲 「私たちはバスに乗って空港に向かった。途中、骨を撒くのにふさわしい場所があればそこですかさず降りるといふ作戦であった。正午に差し掛かったころ、三女が例によって空腹を訴えたので、どこだか全くわからないさびれた町で降りた。レストランやカフェなどはなく、屋台でケバブを買い、外で食事を済ませた」

絨毯を敷いて、その上でのんびりしている三姉妹。

優 あああ、お腹いっぱい。

シオ えええもうちよつと買ってこようかなああ。

優 アンタ、まだ食べるの？

シオ うーん。

美咲 ちよっと、こぼしとる！ もう！ 200万やけん！ 拾って。

優 別に、ホントはそんなにしないんだからいいでしょ。

美咲 でも200万やけん。

優 はいはい。でもホント綺麗だね、これ。

シオ どげんすると？ 空港で預かってくれると？

美咲 ええ？ 大丈夫でしょ。

優 ここから送ればいいでしょうが。

美咲 いや、こん国は一切信用せん。

優 あ、そう。

美咲 あ……

優・シオ？

美咲 思い出した。

優 何？

美咲 あん人と最後に話したこと。

シオ？ 何？

美咲 電話だ。絨毯だ。

優・シオ？

美咲 部屋に絨毯敷きたかって言つて。……いいのあったら教えてって言われたとき、電話で。

優 そうなの？

美咲 ……そうだ……考えたら……そうか？ いや、あれが最後だ……

シオ え……それで絨毯買ったと？

美咲 ん？……まあね

優 ああ……そう。

美咲 めっちゃ高うついたわ。

シオ ああ（笑）

美咲 げらげら笑つてそう……

優 うん……

間。

シオ 何あれ？

優 ん？

シオ あそこ、人のいっぱいおる。

優 ああ、ホントだ、お祭り？  
美咲 何々？

シオ 「それはお祭りではなく、結婚式でした。人が大勢建物から現れて、そして踊り始めました」

優 わああ、すごい。

シオ 花嫁さん綺麗か。

優 花婿、顔濃いなああ。

美咲 あああ、ホント（笑）

美咲 「数十人の人々が次々に踊って行く。この国の結婚式はひたすら踊り続ける風習だということだ。皆がそれぞれ思い思いに踊っている。新郎新婦。その友達、家族、子供、老人、皆、笑顔だ」

写メを撮っている優。

優 どう？ 2人。

美咲 ん？

優 いいもんだなって、思える？ あれ見て。

シオ ええ？……そりゃ、まあ。

美咲 まあね。

優 じゃあ、それでいいじゃない？

美咲・シオ ？

優 私たちは、どこにでもいる、女です。

シオ 「同じ星で起こっていることだと思おうと改めて不思議な気持ちになりました。

笑顔で踊る人たち、その近くでは突然人が亡くなり、長崎という小さな場所で、もがいている人達がいて、私は妊娠して、母は死に、私たちはこんなところに来て結婚式を見ている。ここは一体どこなんだろう。

私は一体何なんだろう……」

優 え？ 何何？ 私？ え？ え？ 無理無理無理（笑）！

シオ 「踊っている人達が私たちの方にやってきました」

優 やだやだやだ(笑)！ え？ 踊るの？？ ええ？？ ちよつと(笑)！

シオ ええええ(笑) 優姉ちゃん(笑)

美咲 ほら！ 頑張れ！

優 こう！？

優、踊り始める。

シオ 踊ってる(笑)

美咲 うける(笑)

優 ちよつと笑ってないで！ 写メ撮ってよ！

シオ、写メを撮る。

優 ほらほら！ 2人も！

シオ 「そして驚いたことに、お姉ちゃんも踊り出しました」

美咲、踊りの中に入っていく。

美咲 シオ、写メ撮って！

写メを撮るシオ。

美咲と優、笑いながら踊っている。

シオ 「私がこの長い手紙をあなたに送ったのは、知ってほしかったからです。

私のこと。私の家のこと。私の母のこと。そして私がこの旅行で感じたことを。私は多分普通の女です。だけどわからないことがいっぱいあるんです。母の最後の言葉は『産め』という一言でした。それがどういう意味なのかさえ、いまはわからないんです。結婚すること。子供を産むこと。母になること。子供を愛して育てること。あの土地で生きていくということ。私にはいろいろな覚悟が必要なのです。その覚悟をわかって欲しいとは言いません。ただ、知ってほしいんです。

怖いんです。だけど今、私は向かってみようと思うのです。それでもいいですか。それでも、いいですか」

美咲 シオ！

シオ ？

優 シオ！

美咲と優、いつの間に小高い場所に立っている。

シオ ？

骨の瓶を開ける美咲。

風が吹く。

骨をゆっくり撒く美咲と優。

骨が風に舞っていく。

シオ 「そして私たちは再び、母を見ました」

2016/07/09

お  
わ  
り